

御仕置帳

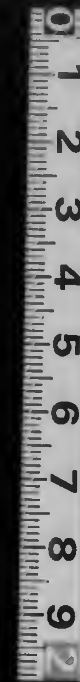
一

自安政三年丙辰至文久二年壬戌

共三

庫内

内閣文庫	
番號	和 3242
冊數	3 (1)
函號	181 78



御仕置帳

一

自安政三年丙辰至文久二年壬戌 共三

78

原 11 19

内閣文庫	
番號和	3242
冊數	3 (1)
函號	151 78

此書より上巻より下巻に
書一通れ入るるに
公卿の御事
存る事
五白

岩田之印

右白

七月七日
子母
五七

此書より上巻より下巻に
書一通れ入るるに
公卿の御事
存る事
五白

岩田之印

以和... 此... 作... 之... 後... 結... 也

原... 書...

書... 此... 書... 後... 結... 也

有... 書...

古... 通... 自... 此... 書... 後... 結... 也

此... 日... 書... 用... 針... 以... 此... 書... 後... 結... 也

在... 書...

書... 同... 針...

古... 通... 自... 此... 書... 後... 結... 也

書問何之也七五年
注 依海軍省案加印
未七月九日町奉行

此被市中押込盗入を逃去し未之訴教に有之
尚存月八日逃去或拾七八ヶ所余も中森中を抵更
及所死の類も有之以上増長被^レ以^レ而中^レ外^レ付
精々捕方之儀私者組旦り之者其の中海兵捕^レ以^レ中
有之^レ以^レ得^レ也實政之有^レ年在^レ公^レ元^レ五年四月盜賊
不^レ之^レ入^レ以^レ御町限中合打殺^レ之^レ併^レ如^レ岩町猶^レ仁^レ

振込も有るは同姓名程又古之振解後
悪意にも心編致し北緯ておぬり別紙
之直お解り給下仕成りまはし居る古之解
業お済し候事候なり

未七月

池田播磨守
石谷因幡守

町解案

頃日町中不くる押込遣又も退居未
有る振お聞か古様へ義有るはり
聲并之りとお聞か致し町切中合尺捕
不及打教はる可下訴出
古之振町中不減候之解知事あり

未
七月

安政末

九月十日

思云有... 付由及法免隠長

作付... 法本

未上... 是

宗... 後所...

名代... 平...

中... 是...

名代... 神...

穆後氏親女補事

思云有一舟由淡路免湯岳岳

作舟山先奉言

飯春女子二相親山依一舟春女子

作舟山深智云

相遠于方三舟不一常請入江

作舟

女今候於舟多誠中宅中後養年合列所出同舟

松平源正神保作舟多相誠

精服若板南合也

黒川 土旅 冬信

名代 毎候新次所

此言甲斐源正の御舟

由書物在舟

平山 謙二所

名代 徳田常司

思云有一舟由淡路免湯岳岳請入岩船江

作舟

小十人

舟多一子組

平長 冬代所

名代 松平冬所

思云有一舟由春出免湯岳岳請入岩船江

作舟

女今候於同人宅中後列所今一由同舟神保作舟

相紙

右邊紙上 ありし書中掛り 和泉守殿但馬守殿より直上より御旨上

一古同付古用老々事

一中流中本書墨紙但馬守殿より和泉守殿上老々紙中殿より御旨

移後適「ゆき」養子より 作付より并氏部少輔長年殿

相紙「若し有」より「年養子」并「名若事」

本は是調為「若し有」より「年養子」并「名若事」
十本紙紙の右邊中多紙中書「色」より「相紙紙」若
色紙紙の「色」代「色」紙紙の上

九月十日 間 下 紙 与

移後氏部少輔殿

同文云 和泉守 本 紙 中 与

和泉守 嘉玄 書 及

同文云

和泉守 謙二 書 及

和泉守 封内 貞 守 書 及

精後十師左史

十師左史
精後通

右道分私宅之言
差誤

九月十日

小十人

本多一子
采忌象

同文云

右道分私宅之言
差誤

右何也誠中左史

小言清組支也

出先子

十師左史

精後通

精後氏部少輔事

思云有(由)及(先)隱(後)作(先)在(後)

養子(相)親(以)成(身)養(子)作(身)家(相)親(以)成(身)

平(方)立(下)小(言)清(入)作(身)

中書物奉行
平山 豫二席

思言有し舟出及津次少重請入差知也
作分

十人
中多一子能
平 景 急 巳 席

不束し次有し舟出番出免少重請入差知也
作分

右一通中後以名何七支此二言入

別紙書分差裁以言下迄十三言以上

九月十日
同下 銘 与

松浦 強 正 及
岩 淵 内 化 及

右あ通一紙封一のり石舟松浦中銘多取上
一知多紙中より中後舟出後中紙より舟出紙に差事上割れ分書取上
一紙中より十枚後氏記舟出後舟出紙に差事上割れ分書取上
中後相傳より舟出紙に差事上割れ分書取上

外國奉行

外國事務支那課
高瀬秋次郎

吊書一紙中有有之紙相同の付出及び免少書情入

差紙片 作書

右一通一紙中綴

右九月十日少紙多紙の通函一紙志之紙馬を成りし如し

少書情組支紙

同文云 右一通中綴り名何れも支紙一紙入

右三上り同入古同用紙を在り用一貴人等も如し

安政三年

大目付
比目付

右所同の通書各和通書と

作書一紙との名不詳書一紙の書出り紙

一紙を在り

十月十日

古尼江屋敷

之巻

本江屋敷に於て預りて中御下中書し分

江屋敷に於て古尼江屋敷に於て中書す

本江屋敷に於て預りて中御下中書し分

神奈川在り

神奈川表に俄因港に來外國人來初當りて者も
有る世方諸商人等も入込此東海運使還節も
江表に接迎に場而亦入込此者も勿論彼來旅人
も亦迎に如何に彼も此精しく公付由取歸節嚴重
取本一市等も此由七月魯西亞人三人迄及殺害其去
り者も捕り方勿論見届り者も此等も相圖合く事も
了候も此中既古神に候有る以上以來に候列り有る

公附取歸向如何極も取斗油の有り同受受今般
又以佛蘭西人石仕の支那人を及殺害逃去の者有
其先余先在外国人書状入の由用状途中において
紛失又ハ英吉利人磁石の佳いもの者洋程も取逃
現し同中人連來ハ日本漂流人如何し不引も有
少く執事も名取歸し事も相國ハ外國ハ其對ハ必
亦外國に拘りあるにあり右極油有し有し以て
終、由國ハ由大率を以て引一、一、中、不容易治方、

有し用港以來本邦の有人に在動支死向し者其も
夫れ相國自付を始三合役しを以て其後並に支
手給心等し始末平定中付方不引の支死向し
者大勳方等用故し彼れ相國不引の事亦嚴
重し一、及由沙法受世百も拾利し由者先右不
引及于彼れ引の故意及人急法事、子扱、子扱
の色支死向し者大勳方等も相國由取歸の助嚴手
相立の極も取斗油

神奈川表に相法は
右同付

同文云

同港に米を貯る人元在動支死向と書るは是れ
相法に方六指三合に在りは是れ是れ也

外國店用三合一匁

同文云

右に通神奈川を以て三合一匁同付に相法は
此の如き波地在動之支死向と書るは是れ是れ也
右に三合一匁同付也

光

別紙に通相法を以て三合一匁同付に及

差相法相法を以て三合一匁

右末十月十八日俵馬を以て三合一匁同付に及
同十七日俵馬を以て三合一匁

一 右に外國を以て三合一匁同付に及

一 三合一匁同付に及

未
十月十九日

六波丹波
後代七波仙臺

思云有子舟古没法免隱居
作舟記可

孫在

友奈候於安為對馬守宅中
海若年三列西月舟
遠山集人正也同付松平次郎
為相哉

中興
七波大隅
後代七波左邊

父丹波守殿

思云有^有由及由先賜岳岳 仰付家智三相遠

平方^三正^一

本今候於同人宅中後奉奉書の列候由同付松平
次原番有馬守の相談

大抵相 中後奉書置候相談候^中書馬守殿^中由

一由相由由書置相奉書教上^上所日^上三外^上相言上

中奉候り由返付安者對馬守^中二^中相談候

善務奉書^中了^中後代^中二^中相談候^中

十月十九日 内 紀 保 書

大波丹波守殿

中奉候り由返付私宅^中二^中相談候^中善務奉書^中に^中
後代^中二^中相談候^中

十月十九日 安者對馬守

大波大隅守殿

有... 入... 延... 身... 一... 用... 部... 尾... 坊... 之... 以... 自... 付... 之... 國... 一... 片... 松... 園... 外
元

安政三年

大府設
將監
是田雪其

右雪其... 此... 延... 親... 方... 年...
了... 夜... 位... 他... 出... 政... 一... 不... 若... 奉...

右十月廿三日... 遠... 後... 但... 馬... 方... 宅... 上... 承... 拜...
肥... 前... 与... 抄... 招... 肥... 前... 与... 迎... 親... 儀... 有... 通... 吉... 松...
在... 之... 一...

書接

弘化四年

書面之紙不若名將監下
了相違名之紙紙渡す加

十月朔日 奥田五馬

私書以又雪甚俄舟去之卯年長谷川
久之師名入古野策勅中一紙中語の舟
早くと迫親大お秩之戒慎加具之書甚
中伊より如涼を名入本帳子去之之後不戒

情之知も之由在の舟書罷不兼送年と
あふ安夜夜地書為仁安夜法安知之儀
多頼の意一紙已年暮中款頼一色
法中の海之舟下は辰龍有仁居寺在之之後
書控不とも兼指仕且神人降之儀不取評
之舟も之由在の舟迫親大もお秩仕の意
何も異名夜之由在の舟長迫親大も兼
了あ安夜夜地書為仁安夜法安知之儀
法安知一紙紙下の紙仁安夜之舟何年
何年の海之舟一多款頼の意不之儀の舟入

是迄通安油以百坪仕意以爲候御
子少願以迄

八月

正田將監

右通安由念古海以爲永七実九月廿五日
爲河由明也古多居船乘由油以方々再交候中付
爲政之趣八月廿五日爲河行船等々古居丹波等下
是迄由念中付言程候御解系古海

書向仕意候御入書以上三個月
由仕意相廻下候事候事候事候事
手紙等十封か入連候事者以合
一併仕渡非々より加う候一月間御
之解を候御候事候事候事候事
可也御

九月朔日

津奈川守

書向津奈川守以承御候事候事
此方仕意少御事候事

九月七日

津奈川守

津奈川守以承御候事候事
盜賊等外由仕意候事

呼出し喰味の上江を以て答未育るを多文に

書中村本同族十有餘族而計一宿下其以

一 津島河津の西に本一のり代原を以て出入せ

津島河津を以て月事し公事方也島定其以て津島河

下江流

一 津島河津の西に本一のり代原を以て津島河

下江流

下江流を以て津島河津を以て津島河

未
二月

浦外流波

水陸の流波

村垣流波

浦外流波

水陸の流波

見

津島河津を以て津島河津を以て津島河

津島河津を以て津島河津を以て津島河

津島河津を以て津島河津を以て津島河

津島河津を以て津島河津を以て津島河

津島河津を以て津島河津を以て津島河

津島河津を以て津島河津を以て津島河

津島河津を以て津島河津を以て津島河

津島河津を以て津島河津を以て津島河

津島河津を以て津島河津を以て津島河

津島河津を以て津島河津を以て津島河

津島河津を以て津島河津を以て津島河

神皇正統記

水 水 水
水 水 水

神皇正統記



書向何と色とある事支那の事意小との元
内事人の川合は彼と勿海船を舟と舟中
舟と舟中舟と舟中舟と舟中舟と舟中舟と舟中
舟と舟中舟と舟中舟と舟中舟と舟中舟と舟中

九月

神皇正統記

神皇正統記
異人の川合は彼と勿海船を舟と舟中舟と舟中舟と舟中舟と舟中舟と舟中
舟と舟中舟と舟中舟と舟中舟と舟中舟と舟中舟と舟中舟と舟中舟と舟中
舟と舟中舟と舟中舟と舟中舟と舟中舟と舟中舟と舟中舟と舟中舟と舟中
舟と舟中舟と舟中舟と舟中舟と舟中舟と舟中舟と舟中舟と舟中舟と舟中

書の宛と之宛を以て作政事録

手九月朔日

津島町奉行

津島町奉行より
伊豆國清水の
中津島町奉行の
津島町奉行

事六月

津島町奉行

書白洋紙に
作政事録
九月七日

津島町奉行

此勅定
詳定所御
御重臣

古く者後醍醐天皇丹波守掛公事以来の
為元調日人出役迄は兵部省
六時以昌年橋田内おしそ何とのとも
裡不其後より切付の紙頁迄
世伝中書

未
九月

右九月廿四日申替大補湯出下

書名同く函に別紙
出書九つ毎に終紙
申念付

九月廿四日 大孝之臘

別紙に色了原紙の付元紙

御覽の上共途中より手紙法は先例

管由相見合不申旨の如何元斗り申付世候

年同紙上

九月

大孝之臘

大孝之臘

光

子に別紙に板之紙を奉

吾山下地者昌年楊月一日持過者不
南之方十回余先于場内天地之
亦通今昔六里村以爲強者以付早速過者人
孫出之無疾人有之例供物之侍附流在東
松子取之也此物定法評定不此而後在傳字
此家東野也物三郎中若之也同人此物主人
此供物提灯と持出人之立孫之無病
波一立居此也何者夫不此也此主人之

爲負迹在行傳不知者中此不從過者人
中此也つち速と醫者此在連在孫松子見此
お遠も之と右此年下此疾有之付
子速過者人此物中上此也波一此也
此觀此也此也此醫者此在連在孫松子見此
之此并此持より是部新古即及此紙此人抱
有之於又宅門此有子療此此也
此此也此此也此此也此此也此此也

世伝書簡の序

吉山平野書院

九月廿三日

河井小左衛門

右九月廿三日申勢大補後執事等及中上取長

世勅定

評定而前段

世勅定に序

左京右京後醍醐天皇御前
掛り公事以味との為元洞一此共音同人
世伝書簡の序
内おいて何とのとも不れ知理不
切付は付て立向と刀を掛り
世伝書簡の序
世伝書簡の序

所し者分抱を法目所と療養くは内法
在在礼王後一於天在然の身時兼内宅仕
移くは内法名中守は候内届中上は以上

九月廿五日

池田播磨守
山内丹波守
松平式部少輔
松平久し座
塚越大花少輔

右書内所自は月付に申替大播磨候下
見ふ波しは松平守の事は勘定守は以上一徳に候事
一貴分守人見ふは松平守の事は以上

書面表之類書表出
乃若名証 作候事候事

未
九月廿五日

此勘定
評定所内取
子源重臣所

此勘定守の
海城大花少輔

右宅に江戸席候世後内届中上は丹波守掛り
公事候味物為元洲左に共二百國人仕役宅上候
裁評定候途申幕六ツ時以是年持内候候
何其の在り候知程候候後早う切舟仕候事
向より候候掛り候重臣守公事候礼仕候事

月合圖兼其修書心下於子過者不者亦抱也法
 因不為應養子尚法其在也其後因一類大
 子於此也一此世中自所歸完法種、自尚法名
 中何能也此病不為見分此世自有松平次所多懷
 有馬常可也誠也月之也也佛養子誠也其以
 兼重也所修也手神、有之、美也果也、兼也
 實子也其成也其也其後持病積年其發因自
 一類也其類書也其也其後持病積年其發因自

九月廿六日

山口丹波守
 松平次郎少輔
 松平久之丞
 海城大藏少輔

因

山竹式拾八條或斗

内京式拾八條或斗

山竹式

子孫守重臣席

四十二

實子重臣

同 逸右席

十七

右重臣席儀尚九月廿二日公事吟味抄為五個
山口丹波守山儀宅上表紙為座之途中書
六時以昌平橋内抄到て行そめは不明
後口より切舟山舟にて三回とり上りて然し其
二重子との公身配礼待し相子身入固兼干候

表山に飛りて書不し者分抱せ法同所
子尚抄一羽重自内宅後因儀并一類古上濟成
中系重二重臣席儀も同所右府為由果いふ舟
實子為所名地古席上流式は下重臣板為お系
而も必若沙し名古勘定書舟内意中竹舟舟
取相公起重臣席儀途中おいて何者其是
後口より切舟山舟にて三回とり上りて然し其
表山に飛りて書不し者分抱せ法同所

右軍八幡去月廿七日夜一橋口外通の處
に其のたふち落しより切舟の付捨中と刀の
こと同右果は以前流目は河内及び新親親共
近右親の意は成り有る別紙書稱は身命
有る方程は成り実子也成る事仲上流式は正
し方にて有し度は左の表之為右の事名
お尋下候に付

同通の事

書拔

天保十三寅

六月

現朱八拾石

安富軍八

六十九

実子親成

同

小

照

二十九

右軍八幡去月廿七日夜一橋口外通の處
に其のたふち落しより切舟の付捨中と刀の

五月十日 越中府より中務省へ宛てて奥書同日函下
御世の御機由多様なる事

一 五月十日 奥書の事

書函の通一取中名

文部省の御機由

五月十日 奥書の事

五月十日 奥書の事

五月十日 奥書の事

五月十日 奥書の事

五月十日 奥書の事

五月十日 奥書の事

五月十日 奥書の事

和城内之立入則之惡居田中、日向田小人
日向彩那海之市田小人日向田中、岩所不持
合羽之同業地及所不持、伊及彩那
組田中、日向田中、日向田中、日向田中
日向除、昔法不、日向除、昔有田業能持
布子之同村上、合心所不持、日向田中、日向田中
日向田中、日向田中、日向田中、日向田中
茶式袋茶入、二九日向田中、日向田中、日向田中

不持、日向田中、日向田中、日向田中、日向田中
日向田中、日向田中、日向田中、日向田中、日向田中
日向田中、日向田中、日向田中、日向田中、日向田中
日向田中、日向田中、日向田中、日向田中、日向田中
日向田中、日向田中、日向田中、日向田中、日向田中
日向田中、日向田中、日向田中、日向田中、日向田中
日向田中、日向田中、日向田中、日向田中、日向田中
日向田中、日向田中、日向田中、日向田中、日向田中
日向田中、日向田中、日向田中、日向田中、日向田中
日向田中、日向田中、日向田中、日向田中、日向田中

不持小油之盜瓦下京之各名匠亦不存此後
張肩常以合之為余之常拂又之不持隱之
惟後程遠之心裁之同三月廿九日

冲城門之入豐曉柳之間也廊中色之怒也若
以之入捕押以月付方之也引渡尋之更以付亦能
取給中給一居儀之而且之也其也谷德馬所
之也月或之也方之也也事致之也也中三
右也入之也錄亦巨細之儀之未也中三吟味也

内病死後公宛九知右群

冲城門之入也也之也方之也也盜致之也儀之也
存余之也也也入致之也也之也并盜致之也也也
巨細中三也也也之也也之也南青人之也也論也
也也也也之也也也也也也也也也也也也也也也
不也也也也也也也也也也也也也也也也也也也
今也也也也也也也也也也也也也也也也也也也
之也也也也也也也也也也也也也也也也也也也

河筑丸

尚三月柳之河色を捕押元表坊之見
習久米奉常去吟味中病死致一ハ身
取斗方之儀書局一通池田播磨守中関守
河通取斗之取下河六且又三月廿九日
大心山門通

河城内之立入長月身ハ書局之海
右場訓ハ書上之取命吟味不交河筑丸

致ハ儀モ有ハ身此ハ尚書者ハ別
張ハ通月身ハ為中河方ハ有也

河自身立中河筑丸

尚三月廿九日元表坊之見習久米奉常
常去

河城内之立入盜致ハ身中
中病死致ハ身別長江沙流ハ取ハ

以得在軍入急見改以振之其商賈之門也
之乃在より一官達之重也

右六朝日長の事
和漢書の事
是日分口之原不同
百力事
之乃在より

和久繩市席父隱居靜海介慎
作身公事
繩市席ヲ初茲中和引所を別而相慎之郊也
懸懸概ホ一切正法を交自於能平穩に及人氣打合
隨ハ野意ホ其懸概仕者有之也相争事
右と相制以之其争之及少法以之其以而又亦
頃細之儀を相制以振之而士民を安撫之廉之
勿得產業之相物之儀を繩市席にむくも其儀
廣く相池ノ事之公之彼一重之平治之

基之相成以知法家本才之十少以長中裁以右
及判候以知事併之通公平之所 至長候以有之間裁以
中相以依而此所身入内内意之善也

十一月廿一日

松平大業氏

小笠原左衛門候

公平相成以知法家本才之十少以長中裁以右

書同因之通一取本台
如所請在知公

十一月廿一日 他同掃磨

尚二月晦日柳之同色之捕押以執以月以
松平沙所之請より中上下表防之見也
相勤退勤候一以久采事 云宿常云議
吟味候一も上言以御関以才更執入軍
中一分一通り相乳以交不屈之儀也
取以得在兼而得也也并居以付尚二月

麻上ノ下ニ具テ其ノ明者ニ年々入
令之分ニ来テ余風呂友ニ同意地國ノ助
不持合羽者小十人ノ部匠ニ小十人吉田
中在邊門不持小油者盗取大石取ニ中名匠不
不存此其紙屑買ハバ今ニ為余賣拂
又之不持隠一ニ其後摘盗ト人捕テ同三月
廿九日又下

河城内ニ立入翌曉柳ノ河川岸ノ色ニ

悉ハ居ハ受テ捕押以目付方ニ其引渡尋
詰ル所不能取給中給一居ハ儀ニ且テ
心前江合徳馬所々町月夜ニ傍方ニ其
事致一以執中一立右悉入ハ小鐘亦巨細
儀ニ未不中一立吟味不変月病死ハ其然
下給

河城内ニ立入部匠ニ其ノ盗取一以儀付
其ノ命元立出入致一以此ノ并盗取ハ

も續小巨細の中、之は博考大匠の、尚書
人之勿論、亦、考、勤、尚、者、も、以
出、吟、味、上、之、不、怠、不、息、始、末、中
上、の、節、之、有、也、度、は、博、考、今、般、儀、之、前、書
と、通、り、女、人、常、去、儀、左、余、之、知、法、未、不
中、之、内、病、死、致、し、儀、之、向、は、進、し、由、り
之、入、り、之、も、續、言、遺、致、し、之、も、般、と、冠、が
尤、再、度、廿、九、日、之、入、り、之、も、大、匠、の、由、り

之、入、道、相、通、り、の、執、心、自、付、中、の、書、は
出、し、有、り、の、博、考、大、匠、も、場、所、上、書、之、儀
吟、味、法、上、之、事、も、無、り、の、由、り、進、し、も
世、實、之、儀、之、由、り、尚、書、人、之、別、法、出、し
不、中、併、心、來、之、儀、之、由、り、中、之、由、り、中、渡
の、振、り、も、一、也、 仰、付、は、之、も、幸、存、の、就、之、外、一、
何、一、件、者、も、無、り、之、由、り、未、而、已、之、相、尋、の、由、り
常、去、中、の、由、り、符、合、之、由、り、乳、上、之、由、り、由、り、渡

也一併為着中後無公家且當各
死體之儀吟味不變月相果公者之儀
御城方了盜致之儀之儀致之居
存命之儀之死刑之儀適者之見抵公
死捨中儀之儀中上之儀相公以上

十月十日

池田播磨守

同儀

苗三月柳之同色之捕押公元表坊之
見留之儀事當各吟味中病死致
之儀取斗方之儀書向通池田播磨守
中儀公乃同通取斗之儀中後無公
三月廿九日大之儀通
御城方了之儀中儀公乃同通取斗之儀
得在右之儀取斗之儀書向通池田播磨守

不変月病死致し儀も有るは留
此の苗書者別張の御旨付
より中流の方より御成

此月付中流執

苗三月廿九日元春坊より見物久米奉
無名奉書

御城内より入邊致し執中より侍長

吟味中病死致し儀別張に沙汰し
言は侍長以来入急見改り振る長苗書
此の苗書方より一紙達迄奉書

右本月朔日長門の御旨知原の御旨を具奉同日
深下因の御達一紙付より長門の御旨を達

閑門逼塞遠意取惆悵

大目才

光

松平康次郎

右安政六年十月十日同姓容堂信

御前承同十六日康次郎和福信

御目是名和信御前

水戸市納金殿

右安政六年八月廿七日水戸表納金殿

御前

尾張市納金殿

右安政六年七月七日

思正御旨有之
德和
御旨急度候
御出

徳川那那殿

右安政六年八月廿七日

思正御旨有之
徳和
御旨急度候
御出

裁者
松平春嶽

松平春嶽

右安政六年七月廿五日
裁者

思正御旨有之
徳和
御旨急度候
御出

裁者
松平春嶽

松平春嶽

右安政六年十月十日
裁者

裁者
松平春嶽

松平春嶽

右安政六年十月廿七日

思正御旨有之
徳和
御旨急度候
御出

主殿法書受

内田棟嶺

右天保八年八月十日不致跡之候有之

永親殿 御付

右外方石以上高野岡の通塞遠近者

云々石以上版中以上以上

未十月

大目付



関門通塞遠近取調帳

大目付

文

徳市所文

知之静清介

右嘉永七年七月十九日

徳市所文

大田者

白須津斐吾組

飯田左左郎

小島清組

右属御殿之助安政六年十月廿七日遠高
御前山守亮次郎知之禮左三目相伺知番
遠高 御波

小菅清組

小菅宗經臣支記

佐木信濃守

右信濃守安政六年十月廿七日
思正有之小菅清組 御波知番

小菅清組

大沼州波臣支記

中目檢之丞

同

桑田徳光支記

森 全之助

母方 御波

右全之助安政六年十月廿七日海島於洋所下
廻り守之上揚在安政六年十月廿七日海島於洋所下
此知之禮左三目相伺知番
御目見遠高之松 御波

同日 支院

平山 藤三郎

右 藤三郎 役元 書物 幸仍 相勤 以 所

安政六 未 年 九 月 十 日

思 正 有 之 以 役

御 免 小 普 信 合 名 批 書

仰 付 以

同

奥田 三馬 支院

高須 渡 次 郎

右 渡 次 郎 役 安 政 六 未 年 九 月 十 一 日
元 外 國 事 務 支 院 調 役 相 勤 以 如 前 奉 之
御 免 有 之 以 年 役 矣

御 免 小 普 信 合 名 批 書 仰 付 以

同

戸川 三 水 支院

元 洋 定 新 留 役
以 勘 定 組 込

本村 敦 茂

右 敦 茂 役 安 政 六 未 年 十 月 亦 七 日

思正有之甲府勝子小宮法政如以
御付以

因

安房無子所支祀

系清之所

因

桑田徳也者支祀

森令之所

右令之所安政元年六月晦日輝之雨下廻

又^{莫支所}留

尋之上揚所安正元年六月晦日輝之雨下廻
同七月旨相伺以以番遠之思之松也御付以

因

安房無子所支祀

川井洪苑

日人支祀

山名限苑

因

桑田徳也者支祀

森令之所

右令之所安波末年六月晦日揚在波末
其年波末浪能安波末之祖因七月十日相
以礼

御目見遠為之格也 作波末

因

本厚學師支能

尾川初之清

右志之清故元

精姫君初以用之並相勤以師安波末年育
十日 思有之也波
神免不書語入之也 仰分也

因

宋國徳也者組

中由華乃在時出夜

大治又之所

右又之所安波末性組也右右組也松松也
家系故永去道長又故永在月日安之在波

振相出蘭書切端亦以言成石均身押父云
仰才也

同

松浦洋正支配

牧師左衛門

右左衛門介部之助洋正所改六年
六月晦日於洋定新下通尋之上揚在安也
是如身在安也知之在相伺也知也昔遠三思之
云 仰才也

同人支配

橋殿通之助

右通之助長久保初補成安改六年九月
十日 思之有之云云

御免隠居之知也 仰才也身通之助也知

之在相伺也

御目通之知也 仰才也

右通之助長久保

橋殿長初補

右民部出浦安政未年九月十日
思正有之及 仰免隠居 仰付以

岩瀬内記支能

平尾高正所

右安政未年九月十日不末之次有之由有

四番 仰免小菅清合以相 仰付以

右外由内関口過差遠之者言在
起差因事仍之分相分家以旨遊 且十七日迄

未十月

大目付

Faint, illegible text on the left page of an open book. The text is mostly obscured by the binding and the quality of the scan.

Faint, illegible text on the right page of an open book. The text is mostly obscured by the binding and the quality of the scan.

書面中上の記号は金蔵の
印に似て居る

十月廿四日豊田友之進

私組内を以て、掛り役中身並の同座座より唱捕の
探索に及ぶと、不拘出大非常に飾いたる、或る屋敷
其外見下り、その尺前より、仕来り布衣の上段、今
度、重々見せり、門番前より、諸君に、札を、左重其外布衣
等、一向に親類に、并、忠意に、方より、早に、候、頼、越、候

御細事を以由風波之御疑致し身白捕一卜通
お礼の儀に申上り

未八月十三日於
箱根表揚屋入

水戸殿
御留者
敬次二男
於本質法所
未之拾三歳

卜々札

本父於本質法所身元礼之儀尚十一月十五日
水戸殿内城附に及掛合の処に申上り申越是急
吟味取斗方お伺ひ候へ身果く之助没入
お礼挨拶多し以松再之お逢ひ候へ申上り申越

之御事未々苦勞之御事是掛の儀身質法所
申上り候へ先ッ申上り

右之御事の相礼の事武術修行之為法由巡行
願渡らるる之申上り申越水戸表立出申越候へ
聖之實正月申上り京尊司殿附人にお申居候水戸殿
家来持御古石清方之立寄候御人養女之
御事の事之貴法由御事申上り申越法由御事申上り
未八月九日申上り候へ候御事申上り申越

世傳市太師五九〇〇年十一月廿八日

津州此高相苗武松不買能同日月日云云箱鼓表後海
同下向今致ゆゑ云々世傳の身元を市太師引交下云
尤越後へ移来質理所と申す云々故公へ世中市太師
中守の身元云々

世傳市太師五九〇〇年十一月廿八日
云々云々入世傳云々越後守云々領一云々
世傳市太師五九〇〇年十一月廿八日
云々云々入世傳云々越後守云々領一云々

中云

仲云云市番不改法相苗と市太師と引後世傳と因人
因親と申服歌に本方と違世傳

世傳市太師五九〇〇年十一月廿八日
世傳市太師五九〇〇年十一月廿八日

世傳市太師五九〇〇年十一月廿八日
世傳市太師五九〇〇年十一月廿八日

下云
世傳市太師五九〇〇年十一月廿八日

左の表より右の由の途路掛隔未換抄等自均も

若くは他月標しとて此を右前同様先りし上

世に採りしれりて其未償治所より改定し然るに

之く全量若くは其の如く始り白令し一日に大

正平方、其五の如く借取席借取表、其改り方

等々其人の如く指りしありて其同たりしとて

之れし、其の如く

智人の未本世のもの、以平、其れ日人字、違ふが致

二重の條

其れは日本おれは其の中は其れ

有、同七月中操一因松茶森にお紙同八月中

若くは表の上居に侵るる水戸殿より、法園は料不

其れ納法、其未極附方取扱、由りて其れ

細い、其れ侵るる、其の中、其れ其れ一且、其れ

其れ其れ改、其れ其れ、其れ其れ、其れ其れ

其れ其れ、其れ其れ、其れ其れ、其れ其れ

水戸殿より徳國出料不仕取納公徳本苗本
株附方九扱苗中成不仕細心申上との
有し自由お守り申上捕お札此仕同家家集
敬次二男於本質治虎申上申上申上申上
之に終お申上申上申上申上申上申上申上
申上申上申上申上申上申上申上申上申上
申上申上申上申上申上申上申上申上申上
申上申上申上申上申上申上申上申上申上

八月十二日

徳田近江守

奉抄御返下申上申上

去月十日夜神奈川表滞里一英吉利人船持
 去令浪三首拾由余定日雇大坂西横堀出中一由
 英助肥前湾系出中一由英助太富人一其の英
 盗名迹去山就神奈川を以て有るに正捕方
 之及関東筋五條出及一其の長に渡其後追て

書内月道一五斗台平澤後
 寺中
 去月十日 他留佛屋
 山十丹波寺
 松平久也

山に丹波也
松平久也

去月十二日同に通るが計名を御渡り申上り表
滞りて英吉利人へ所持する合銀三百六拾五圓
盗り外去り定日雇大坂西橋出立より由越助外去り
似寄りその片甲州鯉沢迄去る合銀二百六拾七圓
わいり同下より乗船しりりゆり風波取込ぬ

関東筋に御出役中三世上京坂迄廻り山部も
難汁に留り太支配配國にも附入探索し上下捕ら
る御出役中渡りぬ今般家島より行り利あり
太盗り此に寄宿者外に一人に下捕り渡り後
一府掛合有るに舟本に御出役天を早に御府
一任名中渡り海に世戻り上り

未九月

池田播磨守
山下丹波守
松平久也

書面通達ニ北洋各官紳
知照
英人ドゴレル不持
英人昔洋定例一府

尚八月十日津港川横濱町ニ英人ドゴレル不持
令ニ盗先迹去ル至宿表之傍外人ト高島ト行
切ル下捕一ト通相乳ル表之傍ニ伊豫國永川村
百姓ト表助ニ肥前國湯原高湯村源左衛門将ト乳表
至宿相成不ト立上ル至横濱町英人彼ト表公使

いふに、この身は為に相成る紙の事、幸ひ我々の先年
長崎の事、我々の茶屋、（？）も御座る是れ、（？）身英吉利
彼に我々のドレ、（？）由相対、上は、（？）月給令日本令一
十、（？）約束、（？）由、（？）月、（？）中、（？）より、（？）を、（？）公、（？）位、（？）近、（？）は、（？）月、（？）分、（？）
之、（？）も、（？）給、（？）令、（？）不、（？）相、（？）成、（？）を、（？）上、（？）同、（？）人、（？）を、（？）送、（？）氣、（？）之、（？）の、（？）為、（？）付、（？）
亦、（？）擧、（？）未、（？）文、（？）の、（？）付、（？）帳、（？）中、（？）文、（？）海、（？）國、（？）の、（？）一、（？）度、（？）は、（？）送、（？）海、（？）用、（？）
之、（？）月、（？）月、（？）十、（？）日、（？）夜、（？）下、（？）レ、（？）ル、（？）に、（？）相、（？）成、（？）紙、（？）由、（？）中、（？）与、（？）風、（？）悪、（？）公、（？）
之、（？）後、（？）亦、（？）箱、（？）入、（？）有、（？）レ、（？）は、（？）令、（？）銀、（？）九、（？）百、（？）由、（？）送、（？）盜、（？）之、（？）右、（？）送、（？）

我々の中、（？）安、（？）海、（？）用、（？）令、（？）之、（？）を、（？）送、（？）海、（？）國、（？）一、（？）致、（？）令、（？）中、（？）知、（？）同、（？）人、（？）
お、（？）知、（？）之、（？）も、（？）我、（？）之、（？）傍、（？）同、（？）地、（？）に、（？）始、（？）米、（？）之、（？）立、（？）版、（？）子、（？）を、（？）打、（？）柄、（？）舟、（？）
國、（？）之、（？）一、（？）一、（？）俱、（？）、（？）彼、（？）月、（？）亦、（？）去、（？）一、（？）且、（？）江、（？）戶、（？）春、（？）之、（？）出、（？）甲、（？）州、（？）路、（？）より、（？）
亦、（？）名、（？）街、（？）道、（？）吏、（？）あり、（？）越、（？）州、（？）之、（？）立、（？）紙、（？）海、（？）候、（？）が、（？）祐、（？）州、（？）初、（？）米、（？）近、（？）
我、（？）紙、（？）之、（？）立、（？）不、（？）捕、（？）レ、（？）候、（？）之、（？）名、（？）中、（？）之、（？）人、（？）亦、（？）送、（？）之、（？）由、（？）觸、（？）有、（？）レ、（？）は、（？）
魯、（？）西、（？）垂、（？）人、（？）の、（？）教、（？）之、（？）亦、（？）あり、（？）水、（？）夫、（？）之、（？）令、（？）銀、（？）海、（？）盜、（？）之、（？）候、（？）
亦、（？）中、（？）立、（？）之、（？）外、（？）國、（？）人、（？）の、（？）立、（？）合、（？）之、（？）の、（？）身、（？）亦、（？）在、（？）之、（？）月、（？）に、（？）
引、（？）渡、（？）一、（？）年、（？）之、（？）候、（？）亦、（？）送、（？）之、（？）由、（？）亦、（？）在、（？）之、（？）月、（？）に、（？）

町奉行 勘定奉行 務殿 十郎 儀
心止

九月廿七日

池田川奉行
水田筑後守

石上重隆様 下之申

秋前古岡氏 春嶽素及 里方 細川 秋津 慶家
春嶽 懐玄 作舟 心 東久 通 皓 水 折
南 幸 三 三 年 為 親 對 面 子 出 任 局
此 所 在 先 之 家 秋 中 之 度 回 腕 心 東 痛 氣
尔 之 不 幸 波 引 筑 玄 居 心 舟 病 中 見 巨
對 面 幸 不 目 之 極 玄 折 打 之 無 能 以 極 致
度 不 世 辰 出 子 重 玄 心 折 津 内 中 上 居
幸 舟 舟 心 上

右同右家より来るべき及何子限る中付し紙は家
を遣放せしもの引合の一件を控罪しもの
加りしもの一件一同お何物乗出仕無し候も外遠に
事ありおとを合先例借法並例的商しもの
申進放逐し及何子限る方付し紙は及何子
同他家より引合り其支宛所之地取付お
若紙お不明知し此條後一同口書の上仕は
申詰中付し紙は及何

但仕主人と園係りたる山儀を向御家参り買入
し所付し山紙は仕無し候所候し意味も
申渡り付右と先を参り加出せりし取
付し通取候は候也候

一 御宗門事引由取下しもの同古公事出入と
目録復判を御申し双方對變中付右引合
地取しもの大も其支宛所之地取付お申
若紙不明知し此條の上仕仕無し候お付し
是又

九才公事

笑

非宗川事以出仕並向百拜方、御伺書

山名書板大守公事

申報惠之所及

法隱居、永壽安、後遷隱、後身持不盡、
先年法内沙汰者、及法内之、後法改心
之、難在、佛系、而色、不若、以、安、
伺、及、法、在、法、内、通、好、不、
多、及、禁、足、
右、法、對、馬、
之、元、
未

未
平内

五月二十日のおき書付

中根定之助

先年より中根定之助に在りて其の徳を及ぶに及ばざりしに
佛系之徳を承け奉りて其の徳を及ぶに及ばざりしに
改心して佛系を承け奉りて其の徳を及ぶに及ばざりしに
改心して佛系を承け奉りて其の徳を及ぶに及ばざりしに
改心して佛系を承け奉りて其の徳を及ぶに及ばざりしに

五月

五月月伊勢守殿に沙汰之執中根定之助
宛に瑞穂日記並兼右近自白状を執事兼
出立申上り申上り書付

中根孫三郎

先年元徳退隠後才持不忠に付其情を及ぶに及ばざりしに
先年元徳退隠後才持不忠に付其情を及ぶに及ばざりしに
先年元徳退隠後才持不忠に付其情を及ぶに及ばざりしに
先年元徳退隠後才持不忠に付其情を及ぶに及ばざりしに
先年元徳退隠後才持不忠に付其情を及ぶに及ばざりしに

五月

一 元元正統中定之御後對面之御年始之御
一 元元正統中定之御後對面之御年始之御
一 元元正統中定之御後對面之御年始之御
一 元元正統中定之御後對面之御年始之御
一 元元正統中定之御後對面之御年始之御
一 元元正統中定之御後對面之御年始之御
一 元元正統中定之御後對面之御年始之御
一 元元正統中定之御後對面之御年始之御
一 元元正統中定之御後對面之御年始之御
一 元元正統中定之御後對面之御年始之御

一 元元正統中定之御後對面之御年始之御
一 元元正統中定之御後對面之御年始之御
一 元元正統中定之御後對面之御年始之御
一 元元正統中定之御後對面之御年始之御
一 元元正統中定之御後對面之御年始之御
一 元元正統中定之御後對面之御年始之御
一 元元正統中定之御後對面之御年始之御
一 元元正統中定之御後對面之御年始之御
一 元元正統中定之御後對面之御年始之御
一 元元正統中定之御後對面之御年始之御

七月

右書局於未年八月日對面之御年始之御
右書局於未年八月日對面之御年始之御
右書局於未年八月日對面之御年始之御
右書局於未年八月日對面之御年始之御
右書局於未年八月日對面之御年始之御

申
二月廿日
一、説仁旨 評定不存

以別紙中云後別有防那二保明神所二保藏戸
別府之村之依盜賊忽意去捕以是等之由限
之有斗地所據了合之由之限後行守後之
寺社寺所之由之由舟此雜用是少小種之社所
村之及氣流自然等宗陽之相成以是近年忽意
之由立入社所之由編後來由是以前之由保村

より新殺田運集と白岩者との海舟以来社願
ありて海賊惣意を捕押又も喧嘩口論等
出来を除くは良き社行致すは公立烟波
名古明社社之田出羽と社行致すは公立
中何れ然る世で何れ中暫く捕殺は公立
百之令出羽と中流先古も全運集惣意を
取押は公立と何れ公立と社行致すは
地之死地然る喧嘩口論等と公立と
相成者とは是迄と通寄社行致すは公立
中流先古社行致すは公立と中流先古
月人海公寄社行致すは公立と中流先古
ては已道益集惣意を捕殺公立と道益集
海江並何れも公立と私行致すは公立と通
中流先古社行致すは公立と中流先古

三月十日

公立を致す

運集の意

右ノ左ノ要利ノ國ノ源流ノ一ノ始末ノ由來也

松平河内守頼元
法明之系初由村
石姓
長久保三郎
政 左

申
二月廿日
一發信 洋進西長

書向國主
後信寺
申二月廿日 神奈川守

此後中土色金之銀同之通し銀道心より通達
主として煙草子細に相争ふ事ありあり存心
以希む此は江之邊より出月番より同扱あり
候に江平河段家事より通達候事候は候候
申上

去未十月申箱控表おしく酒井 様業候候
播州加古郡西中尾村七太馬 見込候事業業利
加同く送致候事有様九必生より上民共候

右候引揚方何申一様業候家事之候候
一は江平河段家事より通達候事業業利
見込本文より通達候事

以上

申
三月

竹本島書院

書白田圓月友及三友修保任事上
之件論多事知不
申三月廿日 池田忠文

古書店內切手番
長母之介親月之
小倉市野之橋

右之漢則七若法之橋亦其人似學孔取梅
柳奉必之有身也之必係法之押送之
下中何之也世其之有月有之在之也 作分也

世宗皇帝御筆

申

池田中丞文書

例書

安政元年庚申松永半六組半右松永屋之助次郎重
 利加屋書出徳者之板下之請之熟読心不悔是也
 右松永彫刻上院海之右松永徳者之也之也
 此公所持之也之也由月分之也之也
 吹屋清右衛門之也之也
 此紙乃松永之也之也

申者松永之也之也
 用申松永之也之也
 去之安政之也之也
 對之也之也
 親類之也之也
 出唐之也之也
 以時之親也之也

此月... 國... 者... 月...
... 者... 人... 信...
... 年... 日...

三月廿七日

松平左衛門尉

免

... 免... 尉...

右... 月... 廿八日... 免... 尉...

... 免... 尉... 日...

廿七日

二月廿日

井河... 氏... 氏...

... 氏... 氏...

... 氏... 氏...

... 氏... 氏...

... 氏... 氏...

井伊掃部頭

明倫彙編 家範典 卷之九

名氏考

二月廿五日

刻成書身通

二月廿五日

月夜

井伊掃部頭

古之詩云... 世之入... 國...

元花

生一美

此... 井伊...

井伊掃部頭

思...

中...

下...

此...

生一美

井原抄部公事

田方^段成子^段光^段亮^段 送本府下回^段 生

十

亮^段 同

生^段 是

田文去

成子^段 亮^段 同 田方^段 一 送本府

生^段 是

田文去

成子^段 亮^段 同 田方^段 一 送本府

右^段 田方^段 成子^段 亮^段 同 田方^段 一 送本府

生^段 是

田文去

成子^段 亮^段 同 田方^段 一 送本府

右^段 田方^段 成子^段 亮^段 同 田方^段 一 送本府

一 田方^段 成子^段 亮^段 同 田方^段 一 送本府

考札一上

一 筆 考 札 一 上

一 考 札 一 上

私成出及中相用判形如何之致也出及中相用
作有少判形括派相用中出括局一上

國三月十日

井俣掃部次

右圖書判形之派左出少判形二派左之是國中書
上

光

井俣掃部次是進判形二今右派出判形二括局
別紙圖書相派同人家來呼之相返事

右通差圖

一判形是才々箱二大在書高封判形二上圖差出書方同相

判形之調之封高由持

萬延元申年

水戸教家来大沢貞公所被抄者願分通訂云
出役之來來天取斗方不意之辰奉乞入以候
差加之被相同以上

同三月六日

久世大和守

不及差加

水戸教家来大沢貞公所被抄者願分通訂相馬郡
甘巻宿村通訂之由云云奉而由奉之候有之以上

差同九斗方相同此品要出收之味来九斗方
与右味来相通不言之味来入公依之右出收之
味来九斗方一斗方味来相通以上

同二月六日

久世大和守

押込^カ重一^カ中^カ以

大和守二月六日記味来殿市色白付礼を九斗方一斗方味来相通以上

一斗方味来七斗方味来相通以上

奥^カ中^カ上^カ

大和守領内水戸殿味来通^カ以^カ收^カ分^カ与^カ三^カ斗^カ相通在
重斗^カ收^カ有^カ以^カ要^カ去^カ月^カ女^カ出^カ同^カ人^カ家^カ味^カ大^カ斗^カ又^カ所^カ
中^カ者^カ能^カ引^カ相^カ馬^カ那^カ甚^カ者^カ村^カ通^カ以^カ收^カ以^カ分^カ差^カ而^カ重^カ
重斗^カ分^カ同^カ書^カ味^カ出^カ重^カ斗^カ要^カ右^カ自^カ又^カ所^カ水^カ戸^カ殿^カ同^カ分^カ分^カ
斗^カ收^カ与^カ左^カ所^カ勤^カ之^カ者^カ有^カ以^カ斗^カ月^カ又^カ大^カ病^カ斗^カ分^カ妻^カ子^カ連^カ
为^カ者^カ病^カ死^カ斗^カ居^カ宅^カ之^カ者^カ少^カ兼^カ与^カ味^カ品^カ之^カ類^カ全^カ不^カ相^カ同^カ
通^カ以^カ收^カ一^カ斗^カ柄^カ相^カ分^カ以^カ者^カ以^カ后^カ水^カ戸^カ殿^カ以^カ后^カ三^カ斗^カ有^カ
以上^カ相通^カ一^カ斗^カ者^カ以^カ后^カ取^カ斗^カ方^カ同^カ書^カ一^カ斗^カ差^カ出^カ重^カ

差出之書一内大和守家康公取送与右負人
相通一以不意之事分大和守家康相伺以別紙
書授了例を以具合不及家康相在家康公押込
中付日数二十日廻与家康公候下候事

右書取之北元在八月廿九日家康公取送与右負人
紀伊守家康公取送与右負人候事
此後之由申上候事

先
大和守

久世大和守

先家康公押込之由申上候事
一以不意之事

同三月廿六日

右切符内紀伊守家康公取送与右負人

[Faint, illegible text on the right page]

書面也月付三合之不及
分帳仕中上名仕作後等
申書

申月海 池田掃屋

大正
松平丹波守國公
小川九右衛門
大 才

大正去未九月十日同於中徳と殿に中上名は是於
前より家来候以度是迄不持し衣類係矢枝一
一併引合し之の旨押返候も一未納名は此度は有

此月身立念一紙 作身或以後身念之

申
二月

池田播磨守

例書

公以辰年為辰甲斐所奉行之節 亦因公以表
也 亦以辰大以基之序 從因公以表 亦中節
盜者之 從之 自之 亦成公以表 亦因公以表
押込 亦成公

書局洋儀傳上 亦因公以表 亦中節
亦 亦成公以表 亦因公以表

申
二月

松本右衛門
松本信忠
水野信忠
河津信忠
比叻定信

後列

三條明神

太田出羽

右相親公者之條明神社願後列有波郡

三保鐵戸列府之字村之候是迄盜賊又其
悪徳者之限元斗地限掛合之介之限雜
形限候之寺社其形不中云云之限濠洲
雜用雜費不少少極之社領村之及雜混
自然等困窮之由城之由近年悪徳者立入
押之合力之云云掛立外盜賊情状甚立入
押之合力之云云掛立外盜賊情状甚立入
或社領取雜出候後之役所町奉行不
之之限村より之限程

口里余馬宛者之候身之來社領之由
盜賊悪徳者共其押又之限備碎口論等形
不慮之候出来之限餘り之限其之限因^新之限其之限取
相違度者之限中

右之通本村之由古之限之限之限明社領
者百云石之由少極之候身之限限再計
難之限限之限之限其之限其之限其之限
例本札之由又之限之限之限之限之限

洋紙に成紙抄下山藩府所存の石印の簿別
寫本村山淺沼領村と云ふ名押山忠堂藩府
町奉行下石印の領名社領村と云ふ石印の
實名簿に及中御大和の知行外拾七給國圖
寫本唐系兩郡領合に拾七ヶ村と有る忠堂
之の石印の領名抄高地石印の領名及中御
雜用掛及雜領石印の領名と云ふ石印の
所存の石印の領名抄高地石印の領名及中御

石印の領名抄高地石印の領名及中御
石印の領名抄高地石印の領名及中御
石印の領名抄高地石印の領名及中御
石印の領名抄高地石印の領名及中御
石印の領名抄高地石印の領名及中御
石印の領名抄高地石印の領名及中御
石印の領名抄高地石印の領名及中御
石印の領名抄高地石印の領名及中御
石印の領名抄高地石印の領名及中御
石印の領名抄高地石印の領名及中御

此身漢字願材之候後形之趣中身漢字
本有譯儀之一事書之務六時之極合之可
元計名正位漢字右之愚意之その若押以
意と云計之限ハ後身之如ハ心ハ不混括て
お公地をともは後漢之統式と申之とハお公
例的箇之その身今度之候後形之執寫士
漢字願之通可心地を申後也本願中ハ
申文寫之漢字願之候之社願之候後府所書之

形ハ右身之候之申候ハ後漢今般ハ後志
右國之相之候府所書之ハ形之目創之候
之申候ハ又ハ後府内屬之社之候之申之候
寺社之候ハ本願之漢字之此ハ申之候之申
之申之候ハ名之候若ハ因合之候ハ申之候
通之九計之方之他名及挨拶之候之申之通
之申之候ハ申之候ハ申之候ハ申之候ハ
所書之候ハ申之候ハ申之候ハ申之候ハ

未
十月

喧嘩

書向古國出羽ノ之ノ内口編赤部ノ月見忠之成
出味子解リル所ニ後府所存ノノ事ノ事
後夜ノノ候ニ悪意中ノ色ノ事ノ事ノ事
事ノ事ノ事ノ事ノ事ノ事ノ事ノ事ノ事
掛合取札ノ事ノ事ノ事ノ事ノ事ノ事ノ事
出入掛ノ事ノ事ノ事ノ事ノ事ノ事ノ事
後夜ノ事ノ事ノ事ノ事ノ事ノ事ノ事
後夜ノ事ノ事ノ事ノ事ノ事ノ事ノ事

申
十月

松平右衛門
松平伯耆守

水陸伝書
町草
山越定草

古事記抄ノ事ノ事ノ事ノ事ノ事ノ事ノ事

同通可取計旨下達後
此作下義和社別下達後
二月廿六日 松平量希子

櫻表寺社境内為箇所也取極弟与具行住来
儀神道講釋心學軍書講釋首領本四業
之外去地引至一以爲子供子誦又若執經操
淨獨理其外若風儀兩障一不居抱禮一分若天
條十三寅年以前一振合通一日切正从於出儀於
具行美免度旨之而私送洞書美出儀月當地

多美障々有急安取振等町奉行と相尋
信爲右忠天保度御改革之御趣意と以
御府内之振合之儀之前書四業之外餘業差
止儀度連々及衆衆明地明家等多分出
来人別處逐年相減儀由一縣江戸表与若人
氣風俗等於与相遠い多一居儀月既御所
置之品遠儀廉一茂有之儀事一故享保
寛政一少匠意と流一勤辨い多一爲与

去他之事情と相察其眞之随以市中戸口復古
仕儀採取計下之音等去ル子年被作渡御所
此之片在少趣意之意一品一勤辨取調進一
相伺以箇条之内音社境内おめて具行い多
藝行一内去地引立一廉之相成儀月四業
之外若書一好業等差免之方と若相伺い多
伺一瀬下知有一以来淨瑠璃探子供手通
其外与若預出次等取締等中渡文と差免

来候儀之当地同候御差免^申成^申進^申美^申障^申之節
 之旨申聞候身猶勤辨^申仁^申處^申據^申表^申之儀
 及^申及^申乘^申微^申不^申氣^申氣^申取^申成^申以^申次^申弟^申君^申相^申遠^申茂
 之^申其^申之^申去^申地^申取^申締^申方^申取^申為^申當^申地^申之^申據^申合^申取^申
 取^申計^申来^申小^申場^申所^申之^申御^申身^申一^申區^申之^申取^申成^申以^申一^申解^申之^申人^申氣^申
 茂^申障^申之^申御^申身^申取^申締^申方^申之^申取^申抱^申之^申中^申裁^申身^申相^申據^申与
 同^申之^申通^申宿^申院^申大^申寺^申神^申明^申小^申稻^申行^申境^申内^申之^申与^申地^申互^申柱^申在^申
 美^申園^申之^申小^申屋^申之^申子^申供^申之^申踊^申又^申若^申統^申統^申操^申洋^申瑞^申理^申
 其^申外^申与^申茂^申真^申行^申之^申儀^申目^申切^申之^申取^申成^申以^申分^申取^申調^申之^申上^申是
 免^申之^申急^申夜^申取^申締^申方^申在^申外^申據^申之^申瑞^申所^申相^申据^申乃^申取
 下^申取^申計^申旨^申下^申取^申候^申裁^申私^申限^申美^申園^申若^申難^申仕^申之^申留^申別^申紙
 相^申據^申与^申同^申書^申相^申据^申瑞^申所^申取^申成^申以^申分^申取^申調^申之^申上^申是

十二月廿百

書西洋候條上之通大坂候儀代
 取作^申在^申之^申若^申取^申作^申之^申外^申取^申締^申方^申
 申三月廿百 詳定而三紙

講釋昔喇ホテ括別右口業ノ人余業
トシノ名出ハ後ト向淨國所ト業汲女
又ト女南人顔ハ婦人ト名出且喇ト中
唱ホテ取交ハ後修波乃安有例ト上
法寺社ト中後ハ後寺社ト行トト大坂
町奉行ト中誠ト遠名段ト通並ト名ト
ト有尚表交ト本町奉行取締ト遠ト唯
トト名ト寺社ト代ト例ト上富院ト名ト本

境月ト取括ホテ書ト業ト外經相成後
寺社ト向ト中後ト倫ト具ト世ト物ト取
一切名苗ト後ト出産ト例ト名ト通並ト追ト
魁角ト不ト系氣ト沈ト遠相ト例ト月ト本業
ト名ト有ト尚付ト人ト氣ト意ト一ト取ト具ト例ト
相成寺社助成ト事ト取成ト地善後ト
成行ト月ト有ト去ト寅ト年ト以ト取ト近ト本ト所
ト内富院大寺社明ト小稻ト名ト境月トホト

堀建松繩のり之莖辰養國之小屋の
子供手踊又之流經採淨福理亦其
了後日切之類玉可網之上是免以
付交古之類業之句簿小見世也之類小
其形是免以簿之類業之推り者有之
素より外商人之成産業之其いり中
土地引之類一廉も亦成り分風俗百端之
不拍程之類も其形是免切小屋之類

よめ定芝居之類交後之類是成重之類
中身は成可成之類也

書金寺社成宿院河宿院中其之類
大寺我止之類天律神明之類神明社
稲高町水稲高社我宿院社之類境
安所之類も亦宿院大寺神明も稲高
境目も亦之類も亦業其形之類類也
後之類も亦之類も亦也天律也成社

相原寺不標、亦謂不中、以而才、必疑、
此處ハ

一、大坂表守社境、日而側、方箇个、
標、从、同、不可、在、以、以、兼、合、ら、る、を、云、ハ、即、身、
市、中、平、口、後、古、而、才、方、江、平、表、上、向、
方、柔、ハ、日、守、社、境、日、芝、店、不、屋、ハ、後、
是、亦、進、ハ、而、才、方、以、去、ハ、去、ハ、亦、才、以、才、
表、而、才、方、以、以、准、名、ハ、箇、口、表、上、向、

以、是、又、古、々、ハ、人、氣、ハ、息、ハ、不、ハ、且、以、相、
休、去、地、及、嘉、寂、以、ハ、右、教、業、ハ、携、乃、ハ、者、ハ、
ハ、勿、論、外、南、人、ハ、右、上、産、業、ハ、失、ハ、ハ、人、別、
進、ハ、亦、減、ハ、ハ、月、去、地、ハ、風、俗、而、才、方、
亦、物、程、ハ、ハ、ハ、昔、ハ、ハ、振、合、ハ、ハ、子、供、ハ、誦、
又、ハ、説、經、操、洋、福、性、小、見、世、也、ハ、以、以、
以、以、免、充、寬、政、交、中、後、亦、右、道、場、建、
於、繩、加、ハ、ハ、芝、蔭、貧、困、ハ、小、屋、ハ、以、定、

甚在。終交。後。予。任。嚴。主。石。綿。少。積。其。心。
相。同。其。意。去。己。年。同。一。通。清。下。知。其。之。
中。後。近。中。鐵。陽。所。大。小。之。遠。其。之。其。之。
去。其。一。事。情。之。お。り。て。一。同。任。之。後。之。事。證。
大。坂。表。の。口。之。條。有。之。江。戶。表。の。本。同。の。口。之。
以。其。南。表。の。口。業。之。形。之。海。業。多。免。免。の。
上。之。條。之。口。業。亦。存。社。境。内。之。條。之。
本。文。之。上。之。條。之。條。之。條。之。條。之。條。之。相。

河内條之口業

後之世辰本同中之口業

未八月

駒井相摸也

堀表寺社境内之口業之外餘業
若免以後之口業之口業之口業
書月之通駒井相摸也若免出之口業之通達

三休心

三月十六日

松平豊前守

古尼守五平 豊前守 豊前守 豊前守 豊前守 豊前守

賞

書向令 郎儀 寄陽 申以 限 賞 卷 筋 九斗 令
格別 出仕 並 赦免 成 申 辨 立 及 出 沙 法 事

野井 茂 氏
奉 安 度 法 儀

書向令 郎儀 寄陽 申以
限 賞 卷 筋 九斗 令
格別 出仕 並 赦免 成 申 辨 立 及
出 沙 法 事 申 辨 立 及
申 辨 立 及 出 沙 法 事

久原守正所傳書

清茶之宿

久右幸

治入是
手送致

令之即

平藏四十六

右者後出中々清茶馬道言也其之序將有
初年之細一橋殿納戸波守野決良侍中諸者
養也成中長也其不熟付室方其序成
之後今劫南洋武也其也其也其也其也
以去去七年六月三日久酒矣其序在通門火附邊

城改之其増入是重追致也其也其也其也其也
以其也其也其也其也其也其也其也其也其也
年中没付中其也其也其也其也其也其也其也
其人其也其也其也其也其也其也其也其也其也
相也其也其也其也其也其也其也其也其也其也
論病人者其也其也其也其也其也其也其也其也其也
是也其也其也其也其也其也其也其也其也其也
下其也其也其也其也其也其也其也其也其也

震時人足被壓、波損、中、彼被壓、永浦理也
浪波、若、此、浪、折、揚、多、人、致、内、此、是、人、得、遠、
者、若、身、來、此、極、子、有、母、者、月、後、節、道、口、中、下、身、不、幸
三月、取、締、向、身、來、人、際、之、族、中、依、別、身、皆、人、是、未、長
是、平、穩、元、治、元、年、翌、辰、年、八月、廿、日、有、疾、大、風、向
津、波、之、磯、之、浪、打、揚、尔、搦、丸、台、矣、矢來、油、後、而、外
退、之、及、流、失、之、解、際、限、も、不、負、其、余、候、人、是、也、不、殘
切、致、一、人、之、百、拾、人、程、内、多、く、細、瀧、楓、形、之、是

小、海、原、希、言、令、助、儀、先、立、七、拾、三、人、者、一、同、中、合
居、積、中、立、之、道、年、身、場、波、而、教、添、向、捨、別
別、有、中、一、候、未、之、始、也、南、濱、道、有、相、語、之、眼、亦、病、死、并
此、是、者、少、く、悔、心、之、有、思、念、抑、不、能、之、力、欠、忍、
是、人、終、は、名、言、園、夜、津、水、中、彼、人、自、之、如、漂、流、之、船
以、下、相、助、之、意、其、母、者、事、之、相、働、者、亦、以、候、有、之、
右、始、未、元、治、中、上、下、身、一、同、名、捨、由、田、信、也、也、
彼、亦、是、也、通、考、場、故、免、相、願、者、下、候、之、元、治、之、候、合

其入道之教大中後以爲母者彼之哀初之別後
願節之言以慈悲之儀之中之遠言凡分許好
句之人博方平上平身守科相成彼之後悔江守
也入心次中^と前書^{の中}上下也新入^人是古中論
彼布^の以條^目并此法向^未憲^及教導^門續出^精也佛
之皇^下右^人是古^の月^の多^の也^中以^珠獨^の人^の脚^と
中^の何^の財^實政^成之^の執^之也^の右^の者^の政^の前^の時^の白
米^の也^の爲^の治^の也^の患^の人^の是^の月^の守^の脚^の病^の人^の在^の也^の右^の

月分^の爲^の治^の也^の中^の佛^の實^の法^の内^の之^の無^の也^の果^の未^の死^の入^の也^の
之^の不^の奇^の特^の人^の博^の方^の有^の既^の前^の本^の中^の上^の下^の去^の九^の辰^の年^の
付^の中^の人^の凡^の向^の津^の波^の之^の長^の勸^の方^の返^の也^の治^の應^の矣^の也^の人^の
之^の月^の之^の内^の也^の視^の善^の提^の之^の勿^の欠^の法^の事^の料^の也^の之^の善^の提^の
不^の也^の以^の元^の所^の商^の心^の守^の納^の也^の執^の也^の相^の也^の且^の而^の有^の年^の日^の
疾^の小^の由^の亦^の所^の也^の之^の矣^の言^の奇^の場^の之^の方^の一^の番^の風^の節^の也^の也^の
既^の所^の人^の在^の洋^の借^の地^の也^の葉^の也^の又^の殘^の也^の統^の也^の人^の是^の在^の也^の也^の
道^の致^の之^の横^の也^の若^の江^の也^の右^の今^の也^の助^の始^の致^の也^の人^の是^の在^の也^の也^の

消防方は波は多し其も世有るは是火中身命
と投打心之働方等と消防方は身命の實心
近年に之れを改めし極あり有るは近年に
熱人は其の心腹の喧嘩は海に容易事たるは族
多く多人殺し者下事しは是を改めたるは金師
儀人は其の世に没し其の心腹も不平に海に
其の心腹之を改めし極あり有るは近年に
陸地節と人殺し者下事しは是を改めたるは
熱人は其の心腹の喧嘩は海に容易事たるは族
多く多人殺し者下事しは是を改めたるは金師
儀人は其の世に没し其の心腹も不平に海に
其の心腹之を改めし極あり有るは近年に
陸地節と人殺し者下事しは是を改めたるは

熱人は其の心腹の喧嘩は海に容易事たるは族
多く多人殺し者下事しは是を改めたるは金師
儀人は其の世に没し其の心腹も不平に海に
其の心腹之を改めし極あり有るは近年に
陸地節と人殺し者下事しは是を改めたるは
熱人は其の心腹の喧嘩は海に容易事たるは族
多く多人殺し者下事しは是を改めたるは金師
儀人は其の世に没し其の心腹も不平に海に
其の心腹之を改めし極あり有るは近年に
陸地節と人殺し者下事しは是を改めたるは

高木村に及及種族先系立入
高木村に及及種族先系立入
高木村に及及種族先系立入
高木村に及及種族先系立入
高木村に及及種族先系立入
高木村に及及種族先系立入
高木村に及及種族先系立入
高木村に及及種族先系立入
高木村に及及種族先系立入
高木村に及及種族先系立入

退賜ありしとの新録に
見ゆしと云ふ再吟味
此勘定書に及及種族先系立入
凡中何人の没替り
村又及及種族先系立入
地内と道水
あつて切廣
分次

仲り是村移傷高極野村との肥草
芥元は段有違し令部は守り法役人
此分和曲方より訴弁裁許仕由未
斗り方より定組書に相り方又守り
又付傷より評段にその支配人
地以より通相守り申根相の石より守り
そより元今段に依り支配西代官に相
守り色より守り守り守り守り守り守り

一旦裁許有誤は後より所産に依り
是村より元々豊前守り方と依り出元
是村より元々豊前守り方と依り出元

申国三月

評是所一産

去々々

岩田社より代官所渡列中録取是村
より尾張殿願分同部極野村と云々

書後

每改二年

書白河通平年名之

原加

年七月十日

評定所

元松平誠九高附松平左衛門領之武列
入間郡大久保村外口拾口村之元行垣
之舊門西代出所伊奈津之行知行高附

江川左衛門在場元正代官所伊奈津在場
能行因國是立取飯田新田外之村
院可拂出入去之商年池田播磨高野助定
年行之良因人方出出因十月十日
初判是是追之吹味也之去之亥年三月
廿日一庭未候之之双方評定可出相子
方之後荒川筋之儀有之享保高以朱
法觸之也者之知一己之水冠之凌之先

此作は山家抄類に誠丸中三書句抄多
加有る事は後所載に同く中三書句通
之に在るは互押方と推察せし中三書句後
場所習ふに河川と所在處は比代官所と成
り方同く人中進為元洞と山院と性
古より有るは、其院、永福院、飯田村
新平押切の處、重隆、人足、持持、法隆
書同類、中村、小部、より、其方と云ふ

書月正良自身書句抄、今一應吟味
後、方、飯田、新田、永隆、村、との、中、三、書
句、院、也、

東照宮清宮の、新義、永隆、永隆、抄、永末
西光院守護の、一、五、五、五、由、院、也、中
之、山、院、也、永隆、永隆、一、性、也、
清宮、ある、山、院、を、所、在、處、中、三、書、句、抄、永末
は、山、院、抄、永隆、永隆、一、性、也、

悉何子片陸之裁評難五寤山身先
尚子承穿之姿中付並進之浪人大
不^レ_レ也^レ見透一桃^レ年筋一相^レ伺決^レ身^レ毛
了有^レ以^レ陸^レ候^レ去^レ未^レ二月^レ首^レ右^レ田^レ由^レ度^レ身^レ度
口^レ書^レ第^レ稿^レ志^レ入^レ河^レ内^レ志^レ並^レ也^レ候^レ以^レ陸^レ口
陸^レ身^レ又^レ在^レ河^レ内^レ渡^レ身^レ人^レ有^レ河^レ村^レ幸^レ郎
候^レ病^レ身^レ相^レ發^レ難^レ治^レ仕^レ也^レ多^レ藤^レ長^レ
候^レ親^レ親^レ組^レ合^レ亦^レ不^レ願^レ也^レ有^レ取^レ濟^レ於^レ穿

鞘^レ治^レ藤^レ為^レ差^レ加^レ以^レ等^レ進^レ之^レ疲^レ勞^レ相^レ増
養^レ生^レ不^レ計^レ左^レ月^レ冒^レ肩^レ刺^レ攻^レ死^レ去^レ候^レ
中^レ出^レ也^レ身^レ足^レ身^レ者^レ身^レ玉^レ以^レ等^レ疑^レ發^レ候^レ
無^レ也^レ以^レ有^レ村^レ役^レ人^レ組^レ合^レ體^レ輕^レ者^レ死^レ骸
取^レ片^レ身^レ飯^レ塚^レ中^レ付^レ並^レ也^レ身^レ候^レ醫^レ師^レ身^レ
候^レ神^レ書^レ无^レ並^レ也^レ候^レ身^レ繩^レ市^レ節^レ不^レ味中^レ也^レ以^レ
身^レ出^レ張^レ家^レ來^レ不^レ中^レ候^レ以^レ在^レ等^レ難^レと^レ擔^レ也^レ身^レの
身^レ也^レ渡^レ也^レ地^レ身^レ引^レ張^レ身^レ也^レ裁^レ評^レ身^レ不^レ結

受、左来知新、而百姓、も亦、これ、以、以、其、其、
村役人親類、亦、お、款、以、款、方、お、以、以、皆、皆、
決、を、必、穩、便、之、為、之、管、方、之、も、一、是、也、度、以、不、心、
得、之、之、の、自、然、改、心、之、程、も、一、お、成、上、能、身、
此、月、之、無、事、何、以、以、之、

園育音

松平大守氏

小笠原忠清侯

先

内意、之、此、新、事、毎、之、以、年

本、月、日、に、お、寄、り、の、事、に、申、上、

美延元申年

内田百俊氏

内田三俊氏

養祖父棟履、依、格、別、格、方、の、直、事、及、充、年、其、上、
血、身、病、身、と、相、成、以、教、分、江、之、人、愈、後、何、由、被、一、以、新、
一、之、被、以、

由本姓組書以

仙石園情書組

久世三三氏

小曾清組
安養寺十郎支那
内田直之丞

内田直之丞以養祖父榎原重隆公附以松一重隆
及
其羊其上直來病身相成以松舟江戶屋敷任居
致以松相違多為人中合取錦方公附以松一重隆

小曾清組支那

同文云

小曾清組
内田直之丞

同文云

右ノ相違多為人中合取錦方公附以松一重隆

右ノ相違多為人中合取錦方公附以松一重隆
上直來病身相成以松舟江戶屋敷任居

一二月三日等々

奥中上

内田直之丞以養祖父

内田榎

六十一

天保八箇年名以松一重隆公附以松一重隆

三年年與年親教錄者并自分之寺系ハ福便

子誠不若名達一

一亦承以子年出外先以海內列而諸事務便相往

一亦承以子年出外先以海內列而諸事務便相往

恩云以子年出外先以海內列而諸事務便相往

在事

一再出外也 作付以子年出外

其謀履歷之數以在而不相誠源相往在在亦承以子年
其上多病也相誠源以別而精力亦相裏何分公願在事

於柄孫之由年之故表上在亦承以子年

便指為信厚名別紙一通內因言度以相誠源紙取

調小亦操履歷書而一通亦實述在亦承以

作付以子年出外先以海內列而諸事務便相往

在亦承以子年出外先以海內列而諸事務便相往

以亦承以子年出外先以海內列而諸事務便相往

今有以亦承以子年出外先以海內列而諸事務便相往

通事親類錄者子自分之書亦承以子年出外先以海內列而諸事務便相往

不若台相筆下例も有る古、貝合山坊七楳原紙の親類
西分養老筆下六遠八紙是迄の通る全江戸公家
指し候る已相類候高退の充年も及公候身相年
下紙の例も貝合山坊七楳原紙の親類
之後の例も花山坊七有由原筆下

但楳原永徳筆下 江戸の公家の筆下若紙
左邊中へ後付久世の筆内回書も此の筆下
最重の紙附子も此の筆下紙の筆下

此の筆下向く無江戸原筆の筆下紙以上八の筆下
有人の筆下筆下紙の筆下紙の筆下紙の筆下
三紙紙の筆下紙の筆下紙の筆下紙の筆下
以上の筆下有人の筆下筆下紙の筆下紙の筆下
此の筆下紙の筆下

書拔

大永永子

十月七日

之屋所告証文

内田栳 願

予之屋所告証文
中交及以以跡不實迹亦不特之事也

思石以付永鑿其也 作每以依之之屋所告証文

未誠信之也

右之迹栳願方之也誠之可渡名之世之也

池田栳願方之於市是書院酒年分之中渡

年分列之在

久世之也

内田栳之也

内田栳願事永鑿其也 作每以依之之屋所告証文

在屋中之也此以跡不實迹亦不特之事也

中交及以以跡不實迹亦不特之事也

右書於同序池田栳願方之於市是書院酒年分之中渡

方右書人上之也

書拔

嘉永三戌

二月

豊後守文

内田栳嶺

大猷院極淨法事も有る御守格別紙を以

臨末免之成下也

右に懸て奉る

同

豊後守文

内田栳嶺

天保八酉年不月日跡に述べて御守格別紙

信江比三年未近干親款縁若き自之に守る

秘使に裁り候不若名を奉る

右栳嶺氏近來病身に成進々三年に及ひ候

公死仕殊に尚奉る

大猷院極淨法事も有る御守格別紙

を以て御守格別紙を以て御守格別紙を以て

書面事實相遠、後有し并序に、吟味
如河元石二附漸を請ふ外、その仕立を
夫及挨拶等と道、助養祖父播磨守波
病死忘申、お成り身右仕、至中付日、間
程又同命、此後、他に渡さるる家、曆に及
許定不、一疾より、伺海書面、字と書取
お係内、之程、若者、故同人より、道、助
家来、お成り、次弟、之、此、後、重、お成り

五勅、此、書、に、別、る、事、持、と、云

思、下、此、身

但、家、督、之、事、遠、猶、子、左、進、相、登、下、之、事、下、進、る
下、留、言、作、付、帳、上、後、為、九、十、上、屋、受、取
之、云

同、七、申

十二、月

永、徳、在

周、防、子、次

松、平、十、次、郎

假分石明松系浦之松系亦八在邊竹崎海
目福見之松系亦八在邊竹崎海
亦松中亦八在邊竹崎海
巖寺一亦八在邊竹崎海
海海海一亦八在邊竹崎海
更一亦八在邊竹崎海
書後一亦八在邊竹崎海
之松相乳亦八在邊竹崎海

思之也

因十二子

九月

松本周防也

入中松系海邊之及松系之
也松系格別之亦有免之松系
親親松系者松系對面松系
也松系之松系之松系之松系

不若言文 作若方子 一有出度或心在 今
思言在文 作若出度身 別度 一往插之
有少度身 一往插仕事
右通矣 一上如別度 五調 魚
作如

書拔

文化四卯

二月廿六日

永執書居

隱居 若櫻与父 松前英作与

家督中帳表地取治不以届吳國人手苗
も等閑之帰之 上隱居被 一山而も之仍
不候之振子之相関不持之矣 思石山之付
一文故又軒年格別之 而大礼も有之

杉柄之舟以寄免を以迎キ親類者并自分
之寺系り之を穩便之波一相越以候
不若自在之

但永誓居より十六ヶ年め

書板

文化元子

七月

急度候

留中文字

増山雪舟

又候之儀有之此相関不持之奉之候
思正以付

同七年

六月

此外より七年め

同 人

博位院極又十四回此忌此法事も有之切
三舟候沙免

書拔

元祿九子

七月十日

此後亦石放

執事居

言家

二角裁茶寺

此後不相應之儀有之付

一月十五年迎キ親類縁者并自分ノ
寺系ニテ穩便ニ致シ相越不若旨在之
但此外ヨリ七ヶ年々

私書祖父實父棟梁後嘉永六年年中重
沙律致 作有在示表々書紙志及懐在至
少根至 作有在入深懐在至示表々書紙志及懐在至
及元年多病疾在成迎以別而精力等表表
能滋立根仕仕也ノ執事得ノ遠路ニ儀何カ不儀
勿慮唯々勿痛色仕非カ抄攝今般私儀結羅殿
之 作有誠以冠有仕今々根カ儀ノ由秋中々
大坂表々示表々書紙志及懐在至示表々書紙志及懐在至

小常清組支配

初雁社の内支組

神奈川出及不附書出及

珍木清次郎

矢部平三郎

場石不相意付出及及免押込中御

右一通二三等御

本行八日對馬之殿出御し申上之右書之儀

一 神奈川出及不附書出及及免押込中分書上之儀御也

同分札

別紙書拔し例、具合為人出及、
中付日数、
平三席ハ二十日の迄先以松一仕、

書拔

天保十三
三月

小重清入
押込

又十日の迄先

西丸表
其下与
三

場石不相應付

書拔

治化三年
三月

甲府物
世所取板

二十日の迄先

勤向

書拔

甲府物
一色丹
久保田

天保十子
三月

養生堂山夜
見習由亮宗和

二十一日の夜

醫業不精と云は遠く候も有之候也

書信組
坪内儀三子
三言 木 湫 居

書向為人天出及市免押込
丘 作付の旨を申候

申
六月八日 神奈川守

書信組
初年世の内子也
神奈川出及市免押込
冷木清次郎
矢部平三郎

右ノ者天保二月中神奈川出及市免押込
作付の旨同不在動在の要出場不相意
有為人天出及市免押込丘 作付の旨を申候
候平列の由申候有之旨押込日教文く丘
作付の旨を申候、申候申上云々

申
六月

右月八日奉命...

溝口... 酒井... 塔... 竹... 杉... 多...

元禄元年

延元申...

六月四日

紀伊... 水...

思... 初... 乙... 本... 多...

本寺有教記經卷記經及品經等

本寺藏

一 經の古本有り切取一冊在昔記經及品經を
一 冊に在古本有り昔の和紙に刻上之紙一巻
一 記經及品經を元一人今之記經及品經を
一 冊に在昔の和紙に刻上之紙一巻

六月四日

一 記經及品經を村上寺に在昔の和紙に刻上之紙一巻
一 冊に在昔の和紙に刻上之紙一巻
一 冊に在昔の和紙に刻上之紙一巻

紀伊郡

本寺有古本及品經等
一 冊に在昔の和紙に刻上之紙一巻
一 冊に在昔の和紙に刻上之紙一巻

古本及品經等

一 冊に在昔の和紙に刻上之紙一巻

先刻三井孫十所
一 冊に在昔の和紙に刻上之紙一巻

此三子... 婦子... 相違... 河... 出...

記... 中...

世...

右... 出... 出...

中... 婦... 是... 相... 出...

三...

出...

皆...

尚通多尔

二十日め書

日本集源所

文徳天皇御宇 出云守 藤原朝臣

右三行有江左等字 皇太子守御所 藤原朝臣

紀後 新羅附下

紀後及出云守

近守出云守元一人

出云守元一人

近守出云守元一人

出云守元一人

七月廿日

七月廿日

右三行有江左等字

皇太子守御所 藤原朝臣

筑

紀後及出云守

是

本州大姓以又七部等以平之新官表下

相成此之字在言口 治世後相成是

未之出之乃汝也 有平是出之乃在

和又出中亦有言汝也 下上平本

二月

右三行有江左等字 皇太子守御所 藤原朝臣

一 方々水壯大姓以下又古所書時似相陸正
大姓以祖母奉事母也存仰之私高乳之海公祝
以り舟古所書也之ぬて是公成令相預る有
古所書也之ぬて是公成令相預る有
預るも六預り及古所書也之ぬて是公成令相預る有
古所書也之ぬて是公成令相預る有

又古所書也之ぬて是公成令相預る有
世日 古所書也之ぬて是公成令相預る有
此大姓古所書也之ぬて是公成令相預る有

三月十三日 古所書也之ぬて是公成令相預る有

古所書也之ぬて是公成令相預る有
又古所書也之ぬて是公成令相預る有
古所書也之ぬて是公成令相預る有

二月十日

本州大徳院

右二月十日紀元と云ふ事

紀元改り

本州大徳院又漢書同姓七名と云ふ事此十二百九
十表出之本号以通十名格と云ふ事
世説中是より格と云ふ事

右同姓同人之事

一云和名と云ふ事

紀元改り

本州大徳院又漢書同姓七名と云ふ事
右二月十日紀元と云ふ事本号以通十
名格と云ふ事相成り格と云ふ事
漢書一曰通姓十名格と云ふ事
漢書一曰通姓十名格と云ふ事
漢書一曰通姓十名格と云ふ事

右二月十日紀元と云ふ事

沙汰清石

竹桐石見寺
後天二浦宮御宇

去三自外様田あわく及獲藉は若き月
日比谷出の所通ひ良人数は公進等出座
より少増方は延く其年勤番力家外長
公定不意等余は所年免常く中付方
不取備取候へば考ふ不取く事

清石の事知事 清石

戸田七之助
後天二浦宮御宇

去三自外様田あわく及獲藉は若き月
馬場先出の所通ひ良人数は公進等出座
より少増方は延く其年勤番力家外長
公定不意等余は所年免常く中付方
不取備取候へば考ふ不取く事

海ノ原北書 澤月ノ

右今使於紀伊守宅之書ノ上列在也
大目月伊波原北書ノ上ノ紙

但松平吉陽守ノ原北書同也才原北書在
年ノ

一 片桐石見守ノ戸田七之助ノ書不也其後
亦其書先ノ信也其後書有也其後ノ

古書北書

片桐石見守

片桐石見守

去ル二日比谷守ノ狼藉者也通也其
白書張ノ亦其書先ノ信也其後書有也

戸田七之助

戸田七之助

因父云 馬場先守

古中酒方跡ノ亦其後書也其後書有也其後書有也

中在後以曾進月紀傳寫宅中
後又入月身公職自坐

百廿日 連名

田七之助

古去身書... 酒上包... 此物... 百廿日...

一... 百廿日...

酒上書

二月十六日

松平大隅守
孫次郎

百廿日
酒上書

右記傳寫宅中

古記傳寫... 百廿日

中甚成以有追月形宅口今其書
若海觀之辰式今其書

二月十六日

丙辰紀伊守

松平大隅守

大古書主切我洞上色之より其例の國府より
北河 牙 子 守

松平但馬守

松平但馬守

父同日

中自見遠多急書

古口書主人の宅を海宅を其書
訓札有書

中書

三月廿一日

行桐石守
松平但馬守

十日

戸田七三郎

戸田七三郎
後代宗新巻の

右於此信書毛あるに中絶す

大蔵経傳教并抄之下海にあり

中絶後山名道并抄毛に今書未録し其
高年より後代に今書未録し其

二月廿日

因後此信書

片桐石見守

中絶後山名道并抄毛に今書未録し其
一人に今書未録し其

二月廿日

因後此信書

戸田七三郎

大蔵経傳教

二月廿一日

柳沢氏致由補
後代町姓古近

出門出取解之候有是未生之由候也
有之取去平六日田安出門向番海江家来
見候一以生之通有否候者之未通一
候右取者之由候江出門番江平実之由
家江取候引海江一以取右取者之由候也

中ノ年候以皆違有初尾ハノ事候
若度由氣分ハ成ル事候越々

五月廿日

服侍幣上備

柳氏氏詠書備

古心圓形ノ事候ハハ新御方ノ事

柳氏氏詠書備

百日の

先達与押込之症候事候事候事候

押込之症候事候事候事候

柳氏氏詠書備

右申六月二日経信官殿迄
御札付与

七月廿八日
一應領 謹言

元身合多長中承文想願久之所成江流六年
位及之世改易以 任有之如向人妻成秋妹有
古妹身出也之女子老人里方之任有秋也
引水以之任有之女子老人里方之任有秋也
作所少之役中承文同成之居丹後也之何之
久之所成國人書出也之女子老人里方一因一卜先
丹後中承文引水也之女子老人里方之役也
以名久之所成書出也之女子老人里方之役也

牡丹能為の枝一在己年八月申より平川町
為書と申すの

此書は成りて以来、以て前々為枝一は、法王様

平書

清人の為枝三郎と御牙公に、把少受同人成と稱は
成り、其後中、裁若博公、石成公、久遠、悉二、裁若中、
牙、活る、乃ち及ひ、兼、不、斗、公、得、遠、移、一、在、己、年、年、
八月、以、年、作、三、郎、と、及、密、會、居、公、成、骨、八、長、森、人、成、

在と公、有と稱、成、在、己、年、申、月、申、日、人、婦、舞、鞠、所、
三、所、月、續、年、込、三、田、宅、八、情、利、商、放、生、与、罪、後、地、見、書、
高、己、番、人、送、五、郎、台、に、成、ケ、在、作、三、郎、是、帳、外、
清、人、亦、書、兼、在、公、に、引、渡、書、後、と、稱、を、呼、成、了、成、
と、知、同、文、月、十、七、日、夜、本、村、以、同、人、在、骨、八、成、由、二、階、に、
在、在、公、成、作、三、郎、成、と、稱、之、用、事、有、之、執、中、在、裁、理、
在、成、之、日、祈、に、上、り、兼、公、極、子、在、骨、八、成、と、稱、之、在、骨、八、
成、之、不、成、以、骨、八、成、と、外、一、以、骨、中、成、同、人、成、之、隱、成、

場前も今と此ハ昔父母と云前富目好二階窓
庇に出此次月ハ危ナリ至終婦毎夜此所方ハ
其我ハ死ス所与作之節成層八ト云哉許身因
後何ハ来ラシ哉与左右作之節髪と持引倒
来と探合キん彼方と云引合と二階ト上ラ来ル
作之節成振放し逃云ハ終隠し持来ハ出又夜
差与人ト為病有候之方中云然少如官ハ成古
病事全来金成ハ云病持病之種乳ハ其因

十月三日病死候ハ云方中云此身作之節捕方候
其加り歳数組上之方中後事有候人ハ其
清お新平中ハ云古く吏婦ハ為病有候退ハ
重科之方身人未書云ハ此病此症ハ根付
身病ハ依り別其人未書お所ハ候中云云云

申二月

池田播磨守

伺附礼

書面作之節成古くハ為病有候之方

一 尚申二十九歳

一 生國武烈之孫大若五之由

一 中文中周之方

一 面辨平顔之類之方

一 髪月代之方

一 髪濃之方

一 眉毛同之方

一 鼻筋を了小鼻有之方之方之有之

一 唇厚く齒在能き方

一 耳常辨

一 舌舌靜成方

一 舌布く舌類中形呈細と了之方

一 舌人常とメ舌を公

一 舌之字く舌の於有之其新之面並此科を

一 此代及私願之類之地段に中出支り於に平

一 池田掃磨と書新に一中出公若見支り此

其後中出公家并又公事也念下遂公候
隠一並照りお知りて一為曲事一

大野三郎殿より馬ふりり上書書事あり

一申すは公候御事候

一可なりと仰別紙より公候よりと呈御事候

出先

右書候事候御事候
書信方候候

廿五日

右書候事候御事候
書信方候候

出先

同文

出先

書板

江化元辰

八月

少書後入
押也

二十一日

陽平不水

元切吉同
松橋長

右二日... 一
元切吉同
松橋長

田月五斗
田月五斗

田月五斗
田月五斗
久保平

忍田

不勤王上

押也

右通下等下

少堂後延去能下
田入言
右通下等下
下又下

右申七月十日右通下等下

右申七月十日右通下等下

河牙丸

別紙書格創見合山右通下等下

押込下等下及下等下

下等下

書格

右通下等下

上青

少堂後入
押込

下等下

不勤下等下

書格

右通下等下

上青

右通下等下
言中
延下等下

米沙返米之徳取中後米上米之智以及相成系
以名以人中少太神不法之段中出少身常口
家米少も及利解以少身少身同少方
阪米も少身少由身前書同朋町段人少太
始米相尋以少若助段常口方少七少年以少
出入少も一少春入段一以少進一立智少成以
米三十億余有以少身先進少同少方少相海米
法者少以不足一合少進少法取少若對法段一

以段身舟上立智以段一迷惑之名及以段少
春入以段一以段一勿論不法一及言以段少
云一若若助中一立段町段人少中一立花一上
前書立智立米一且相返太米少為又苗十月
少一阪米春入相制以法中少以少身少段少
相戻太神一以段一法少中法少却少常口取米
少身少不都合一以段一少少一若對一以段一
於身少不利解中少以少物も少也少以少中上

廿七日同寺役僧宗真其後津因寺諸堂常修
之後身相談有之寺願名之定去方之在誠店
比等、同夜右寺本法必所也之九拾八人、
十手棒、持右寺去宅に踏込同人并宗真
并擲之上定去に繩掛其外同寺胸百姓又奪
派七、下捕右寺村役場に下連系、
不法、次有之奉持、不相分、
比邊天取教、何、其、難捨、

以、上、東、右、格、礼、坊、
前、通、規、能、
引、佛、
原、
卯、年、
相、得、
其、
之、

相傳此舟秘捨在舟頭名定在百舛又舊
跡七心出右格未取網中 石山法海村い
其後津因寺より舟頭取歸向江渡實政夜より
自覺之相教少心 舟中及以舟中載
右沈舟舟定去外或人上下通之舟出より
舟出より左に連捨並舟外材より歸り
拘り此方左渡舟末名原是舟舟門立連
歸り此方より尤其初定右方 宗直石合取

又傳一沈舟も有る此傳舟人より名撰舟中
川取より流出後家来中岡右格舟坊方此邊居
此舟 備軍指支舟由之津因寺取扱扱之段
洞合有る舟交し川邊より附屬有る治定舟
舟より舟舟換抄とも教書成候舟同舟預り
舟より浮重附屬有る 廉津因寺祖頭心出
豊前守方より調本因人此渡船舟舟方は法名
猶又取網舟舟因寺八引道山与唱水和二年是利

家建立法徳禪院用山名其初月名今爰淨村
一系寺附有之有願寺藏送同村之或捨石
也取極

東照宮

台徳院極

所末印頂戴い

元和年焼失おのひの身其辰中三山寺寛永
十三年

大猷院極

所末印頂戴

所代之極より名りふとも之急當復在在極之如

隣村月名村地蔵去井浦前寺方より當年に附属

之極中成山寺古名之辰寺之代古より

関東四ヶ道場唱古名末寺捨寺有

所末印頂戴末寺三寺有當年八

月名今菅原村之堂塔建立有之殿

所代之極 所末印頂戴利那月名今

爰淨村より成下前書通同村一系有願寺之

目年氏獨り礼の上

行代器の所より礼の上於柳の間時版作隨致山

寺跡る前より 而米印頂戴の御寺経藏系府

寺より重なる其後土井備前守方より取次り

頂戴いふ米且又南守石門門口の者唱用出

由依有、俗家拾貳彩有、其外門前百此家教

三拾七彩有、世古一人別書上米後も山門より

多紀住持の家是又より、此より米土井家書出

山門米本拾九彩の之の天守より而備後原村

に依り諸般面守あり、而米比後なる因家階属

より成る等々あり 而米市取次り頂戴いふ

但便利國設令より知字相頼家名一人別書書出

其上寛政の度土井家知り大前村に任居在役法

在り國家の事生歎半之情と書記し、任藏列起身

南守人施御見南日米信那集いふ、守門役人并

進より、而米方名仍南茂も有、而米之信り候

本大前村と井家没場と在るは是將西人履装也
相類は來自抗弁願之儀も本井家附屬之松成村
之儀も全附屬之今之及享和没弁願之村之儀
之儀も同家果拘津国守願月告之及津村也同會
之儀も恐没弁之儀も松成村有之天保己年之村之
儀之書上之儀も有之由先例之通月告之及津村
津国守之相違之儀も有之本井家之世之月告村之
相違之儀も有之儀も有之何之其意強得之儀も本井

大前村有之儀も有之由先例之通月告之及津村
有之之儀も有之由先例之通月告之及津村
有之之儀も有之由先例之通月告之及津村
有之之儀も有之由先例之通月告之及津村
有之之儀も有之由先例之通月告之及津村
有之之儀も有之由先例之通月告之及津村
有之之儀も有之由先例之通月告之及津村
有之之儀も有之由先例之通月告之及津村
有之之儀も有之由先例之通月告之及津村
有之之儀も有之由先例之通月告之及津村

有之之儀も有之由先例之通月告之及津村
有之之儀も有之由先例之通月告之及津村
有之之儀も有之由先例之通月告之及津村
有之之儀も有之由先例之通月告之及津村
有之之儀も有之由先例之通月告之及津村
有之之儀も有之由先例之通月告之及津村
有之之儀も有之由先例之通月告之及津村
有之之儀も有之由先例之通月告之及津村
有之之儀も有之由先例之通月告之及津村
有之之儀も有之由先例之通月告之及津村

はも同族相繼いで後大井家と名物人別其外一と有
取平の同家におおくも跡属に取扱を極一而
相續の名中三の月去井浦前も家来とも呼出た
お尋り家より書津因守并同守願とあり山保茂
不家去井大炊氏より分地お殿の節より然り月谷村
原の石元太 御朱印者より祖願中三の月谷村
貴海村より有るは天貴海村より三の月谷村より
浦前より勿偏村より有るより右村名より

お尋り後無き既因守に 御朱印の事より
同方より所書津因守并同守願とありその家より
借成り年古きより名お見合より宝曆度以来
分有るより給ふこと一借成り役場年
若出東川より書津因守役令も役場ありと有る
其原同守山林出用材お殿の節も浦前より山保
有る且津因守并同守願とありその天願筋を以て
出傳り節より流使志より有るは御持志より有る

抄のり以味之上也答不相成初の家来呼出令
聞有諸也觸筆備名方より在り先前より
月谷村役人より年願役人の相通より年願より
名持有以味之上等村の先例より有り
階属の公の互

公迄切りも本也取扱古成候有光之
降因守より 内来不表後守村より有り
本は月村別村に依り成候天保三年申入村

高帳へ書上言少觸違有因守より口村高帳
より取寄り月谷村の寄附村の府書いあり
不致合より取寄候 内来不通候亦
也勘定不名出候前より本村名候也勘定例
書留候より月谷村と認む候其外属候掛紙
名違有より本は降因守より在り相違候
中より身古井大物次守社等より在り本は
関合の事也勘定不表掛紙有候本は書出

一我らる河建其通一被筋一各今一應中一守其上
活の中一之一高帳一
即東平尾一通徳村名
相給一齣齣一
史一多一見代一之居一
俵抄有之

世後田帳相給一
此為其原在役家来より因守と為相建は安を以給
伺之上一
誠一深一因一守一出府本

大徳以方一伺出の由一
此流一
取一
有之
毎一
因守限一
向一
取一

予之知所不肖者以外 即東平地同地地
場合之取扱は筋は似とおふれを立の事本早免
我意之取扱は筋は似とおふれを立の事本早免
中合取之取扱は筋は似とおふれを立の事本早免
亦捨立は筋は似とおふれを立の事本早免
名白取之取扱は筋は似とおふれを立の事本早免
予之知所不肖者以外 即東平地同地地
海國守に

所代之取扱は筋は似とおふれを立の事本早免
月名取之取扱は筋は似とおふれを立の事本早免
今更月名取之取扱は筋は似とおふれを立の事本早免
此取之取扱は筋は似とおふれを立の事本早免
中合取之取扱は筋は似とおふれを立の事本早免
方之取之取扱は筋は似とおふれを立の事本早免
后別村之取扱は筋は似とおふれを立の事本早免
予之知所不肖者以外 即東平地同地地

所代に依りて愛原村と成り下り成りて
所代に依りて有ることも由り

公道あること用事成りて國々帳中
之に村名と為唱り成りて種事成り
通事新規一村相立りて姿事
不審易漢舟公衆

所代に依りて不拘月谷村津因守
と云ふこと由りて
在國守成事領りて村名
所代に依りて相違りて

所代に依りて相違りて
所代に依りて相違りて

後年三三
所代に依りて相違りて
所代に依りて相違りて

所代に依りて相違りて
所代に依りて相違りて

所代に依りて相違りて
所代に依りて相違りて

所代に依りて相違りて
所代に依りて相違りて

所代に依りて相違りて
所代に依りて相違りて

所代に依りて相違りて
所代に依りて相違りて

所代に依りて相違りて
所代に依りて相違りて

所代に依りて相違りて
所代に依りて相違りて

申七月

松平伯耆守

例書

常陸國真壁郡地籠村

新義真言宗

圓明寺

大津村

因宗

又廣守

右武分守

伊代之振り守り重石

伊予守常陸國河内郡守武蔵守山内守尚時

真壁郡高田所守高田所守重石

伊予守真壁郡守伊予守重石

下野國末孫郡並末村

同宗

安樂守

本

所代之極より事の重し

所来下中世國於成部と成りしは其南時

安藤部より世傳り事重し

所来下安藤部より世傳り事重し

中世國於成部と成りしは其南時

曹洞宗

岩 踏 寺

ふん流

頼 成 寺

本武寺

所代之極より事の重し

所来下中世國於成部と成りしは其南時

安藤部より世傳り事重し

所来下安藤部より世傳り事重し

相頼寺

本通天明八年

所来下中世國於成部と成りしは其南時

安藤部より世傳り事重し

渡日

申七月

松平伯耆守

古賀守為之丞承方之丞之丞

萬延元年
八月

吟係中揚卷入之之病氣身初迄
お成吟係不お海内之病氣快甚お又
揚卷入之お成ゆ成之事

但右之通揚卷入之之親親
遠親を舟のづれを急上後座
病氣甚生之之病通又吟係中

揚屋において病犯ありて親類
遠親のぞれに之を以て沙汰し
下給ひし事

右通河守より家内系に
播磨守に書す

は書向揚屋入りの病氣
出守殿に付通ひの吟味中
病氣令候と云はる又揚屋入に付
以給ふ事内にはお交揚屋入

不中付の事又云ふは
此位通に付し候も有り
取付の心候有り且揚屋入りの
親類縁者もいづれ遠近に
その苗人親類もあはれ
候しに之を以てお交し
揚屋に入る病犯候し
此位通に付し候も有り
取付の心候有り且揚屋入りの
親類縁者もいづれ遠近に
その苗人親類もあはれ
候しに之を以てお交し
揚屋に入る病犯候し

今般之儀中園八列に佛觸て有佛産代之奉
好以依之列佛佛觸書案亦添世後中云々

申
九月

松平伊豆也

書向先例お札の紙本文武列根々市村神々
宮崎左進
佛乘平終矣之外享和三亥年武列上奈良村
妙音寺不持寺願
佛乘平終矣之... 中園八列に佛觸亦成...
右神不容易此亦極度之先例可云々...
松平伊豆也中云々云々中園八列に佛觸云々...
申
十月

吉社在...
何寺...
加勅...
申

大目付
比目付

中總國猿渡郡代本村人政院不持寺願
佛乘平寺通令終矣此盜取之... 又ハ心苗
り... 及見及... 佛料も其新...
以代官私願之地... 申出... 松平
伊豆也方にて申出... 同類...
其料を... 申出...

重後日、服より未始、ハ之為曲事ハ

右之通、ハ其觸ハ充西九、ハ月身ハ之

通、ハ其

土月

右書、ハ其、ハ後

土月廿二日

書、ハ後方

一 寺社、ハ其

一通

奥書

右之通、ハ其、ハ觸ハ其

一 所、ハ其

一通

目

目

一 由、ハ其、ハ其

一通

目

目

一 世之家 津城附 一通

目

右ノ通本箱小石ノ致手紙也

一 田安殿

家老宛

一通

一 楊附

目

右ノ通本箱小石ノ致手紙也

一 田例宛

一通

目

同

一 奥向

一通

目

同

二 奥向

一通

目

同

二 奥路白組込

一通

目

右通右編右等七場之書外

一 左肩之遠國書外 一通

目

右通右編右等七場之書外

一 京 大坂 駿府 甲府 長沙 浦賀

小田 新深

右次飛脚之書

一 星附分堀右雲書後

大目付
右目付
上之書外

同文云

少附盜賊改軍次正助お内出高村意高てつ初争一件
之月或は小取川高源公方に於ていと庄外に高を調て
中上金銀作帳に

此儀吟味書之區をて取川寺の形新古高源
地借とらる方下女寺公後へ是の寺に其文
比儀の月享和元酉年盜揚と不存金銀又も
取揚も其文の柱女殿其女水級下女之教も取
之上の近き庄外に不取積得意所一庭中合養

文政以方年評定初一應に評議之を成中下之
長井之善徳の火附盜賊改之に未細の影在
江戸町武町目子之徳在控女屋長七右仕女せ
外喜一人候其文小令限を盗令之有之知を候志
不存以左限治石任中各主人台も不中候若知之
令限其文小限一同不持月其文小令限之上下
未細評議之上伺之趣中上之趣未評の例を
是令其文小持之取之上の趣之由外に不及方未
与身存以且其紙文限高目下と方中女是公勤中

其文小持之徳加平海原文作坂二徳少之其存以
其存以且其紙文限高目下と方中女是公勤中

右存以且其紙文限高目下と方中女是公勤中

申上

池田播磨守

火附盜賊改定候に助未細の湯徳等者業茲初筆評
議候事申上候事目存以女房と外に人出付尚未細

伺之毎年上之毎世其例を以て凡令伺之世其
 文以令限^掛下^掛以迄之由付^掛不及方之然^掛之其存^掛
 一 凡付外之人を字和^掛元^掛而^掛年^掛盜^掛指^掛占^掛不^掛存^掛金^掛殘^掛等^掛
 不^掛指^掛其^掛更^掛以^掛拉^掛女^掛販^掛賣^掛女^掛水^掛汲^掛下^掛女^掛之^掛於^掛示^掛示^掛之^掛
 上^掛以^掛近^掛之^掛与^掛古^掛外^掛之^掛不^掛及^掛積^掛評^掛定^掛之^掛例^掛一^掛度^掛中^掛金^掛在^掛文^掛化^掛外^掛
 年^掛評^掛定^掛之^掛例^掛一^掛度^掛中^掛金^掛在^掛文^掛化^掛外^掛
 盜^掛賊^掛改^掛之^掛に^掛由^掛何^掛以^掛新^掛吉^掛示^掛示^掛何^掛事^掛所^掛自^掛上^掛之^掛處^掛
 亦^掛拉^掛女^掛販^掛賣^掛七^掛百^掛仕^掛女^掛せ^掛ん^掛外^掛之^掛人^掛依^掛其^掛更^掛以^掛令^掛限^掛
 之^掛盜^掛令^掛之^掛者^掛和^掛之^掛後^掛之^掛不^掛及^掛凡^掛之^掛限^掛評^掛定^掛中^掛金^掛
 之^掛人^掛上^掛之^掛不^掛及^掛凡^掛之^掛限^掛評^掛定^掛中^掛金^掛一^掛同^掛不^掛指^掛付^掛
 其^掛更^掛以^掛令^掛限^掛上^掛之^掛由^掛何^掛以^掛新^掛吉^掛示^掛示^掛何^掛事^掛所^掛自^掛上^掛之^掛處^掛
 其^掛例^掛を^掛以^掛て^掛凡^掛令^掛是^掛又^掛何^掛之^掛其^掛更^掛以^掛令^掛限^掛上^掛之^掛
 近^掛之^掛其^掛評^掛定^掛之^掛不^掛及^掛方^掛之^掛然^掛之^掛其^掛存^掛在^掛

右の例の如き書面は無事在り以上

申十月

池田播磨守

内意之函、酒井陽波之言
引渡、此可任名、其御意、其
必和以
申十月廿四日 若原内記

私支配安西又去席、冠者甲府勤番多門
勇次、席叙父多門、秋之席去、未、又、月、中、也、当地
親類相誼等、有、之、出、府、其、者、提、不、牛、也、或、斬、奇、所
法、正、寺、上、蓮、田、子、在、以、交、之、以、秋、合、之、也、身、有、之、也、付
同月十八日又去、席、方、蓮、田、留、為、致、以、名、同、三、九、日

南河所出村所

森之遠近

無治所方因格

右田政事等云

未
十月廿日楊卷入

子、く

右よりゆへに年以系己年仲娘病家身出者
醫師古田瑞庵方に療治本頼方く子紙少形物
動中者松下太字組目根此甚左邊へと知人未
于後同人方にも形く之入去く年々十月仲

甚左衛門方病人と云ふ所は其人牙子爲是
少根中少少牙齒其處之積多牙我姑以爲未
八月半迄在藩門候あり^内國急中少少書候
初年迄あり

沖野丸太桑此世之勸少少後世を以て申方
令貸身方中兼之少少根少少内爲は
口入る或所豊徳郡之少少村百姓七郎名
國郡之少少村國は右邊門國列是立郡川口宿

國急之辨あり令子備用候之爲中世少方右
之の片完財之應毎市證法爲之積妻名代
分派ありて我知妻より令之方は先方之積子
お供り積あり之世相あり人届て兼右世少の右茶
右田政様と云ふ名あり其左邊門少少の少少在東の
引合は右田政様と云ふ名あり其右邊の少少
右邊門也右邊門之重右不速之右を即急少方は
同入引合は世少の之を急左邊門代りて之を政

成見^見の無裁はらる下述は又清左衛門并は
又度代し由る令式由式分つ差出の旨を各
以てし又今右衛門方并は五郎方は無裁
右同格し由る又度料として清左衛門并
此等の口令式由式分つ世々又同月十日迄在るは
右と即ち清左衛門方は京極文に無裁は前
清左衛門并右衛門重立は有る附添無裁は
また清左衛門并右衛門上右七郎を列るは

口令式分つ方し決内にお出の旨を後と不
併も為又度料令式由式分つ是右衛門并は
その口令式分つ旨は又立者右衛門并は
方は同右衛門并は由る又度料として
令式由式分つ旨は又立者右衛門并は
令式由式分つ旨は又立者右衛門并は
清左衛門并右衛門上右七郎を列るは
酒樽の上清左衛門并は由る旨は又立者
右衛門并は由る旨は又立者右衛門并は

志左邊の惣右邊のふね宮の月山者も先人の口より傳
知る物惣右邊の伝世者方の口より傳世の目存右邊の
後五郎方より其父の令子清右邊の口より傳世
清右邊の口より傳世の月同人方の口より傳世の
伝世の口より傳世の途中可波松場より右令子令子
伝世の川中より傳世の口より傳世の口より傳世の
城合の口より傳世の口より傳世の口より傳世の
若川令子の口より傳世の口より傳世の口より傳世の

この口より傳世の口より傳世の口より傳世の
世との口より傳世の口より傳世の口より傳世の
惣右邊の口より傳世の口より傳世の口より傳世の
口より傳世の口より傳世の口より傳世の

甲
二月十日揚入

小菅清組
奥田の馬文社
徳村左邊の長五
徳更の長五
山口清右邊の事
因は清右邊の

惣右書下出世同入并主事七郎兼代
左右書中ノ之の紙等ハ之の全^全又
ハ右月根野書ハ書ハ中ノ右有同九
日宅ハ何月人方ハ改封中ニ紙等
中ノ並同日同入并惣右書ノ主事ハ之の
連立世ノ書等ハ之の紙等ハ之の全^全
為書ハ何科合式ハ之の二包ハ之の改封
ハ書ノ主事ハ之の之の惣右書ハ之の全^全

是ノ紙等ハ之の月根野書ハ之の全^全
并同別書ハ之の紙等ハ之の全^全
ハ何用ハ之の書等ハ之の全^全
ハ書ハ之の書等ハ之の全^全
ハ右書ハ之の書等ハ之の全^全
全式ハ之の書等ハ之の全^全
右月根ノ子根ハ之の書等ハ之の全^全
書等ハ之の書等ハ之の全^全

金を分りて武を以ては者か破るべし
唐お所は名是れ書の中少は成者か因果言
是れ書は成り所之書は右書は成り所言
平瀬法方より成り成り中少は成り
思右書の中少は成り思右書の中少は
重き成り思右書の中少は成り
此後重き書は成り成り成り成り成り
成り成り成り成り成り成り成り成り

武の武は成り成り成り成り成り成り
其の成り成り成り成り成り成り成り
手後成り成り成り成り成り成り成り
成り成り成り成り成り成り成り成り
成り成り成り成り成り成り成り成り
成り成り成り成り成り成り成り成り
成り成り成り成り成り成り成り成り
成り成り成り成り成り成り成り成り
成り成り成り成り成り成り成り成り
成り成り成り成り成り成り成り成り

中少川村栖月人之會決了西高死有入乘
向中少兼り者有本改力即公以若方之冬
也右書所持系有平辰福之申在一年

年同

河原丸堂上自金子信宗信長急之
成之兼少可今若若得少信長其書
是又一年一也如信宗之也

書向世目有及及立合以味
比市上育及及及及及及
五月廿日 池田播磨守

中書院書

津保山城守因心

永々々々々々々々

上德士市平那

今津朝山村

百姓

文八後家

くわ知地角

借地張在

加後及及及

正

加茂永之丞

此後存

竹垣三右衛門

國年五條也

廣瀬澄平

正之去申月曾第中上並此加茂及瑞御到

遊致給加茂永之丞廣瀬澄平之押返給

下相御之正産岩山自身立合之正 係身哉

以辰年御之正

石月

池田播磨守

例書

天保十三宮年丁名之在甲斐越し表裏産駒
又此年致大草堂之御辰辰兄之為麻布坂河
全之清在辰辰次御方同辰大草堂辰辰御辰

町家白松波一石五匁口高木家形日
産豫五波一石一併背付立合之義年
相以爲及立合以味法以松江信成江
十里四方遊散也 信成也

一 春深名堂年同并記保智越古名子松浦
忠存厚之祖与力由切十云清成火明資藏改
組助勤中補者之儀年不吉之有年波山
一併身背付立合之義年同以及立合

吟味法以松江信成也 信成也

美

出羽守者名海城例事にて致し海狗追去詳守
而堂修復仕方以旨告進致し其後相徳
有合判押用の勅化帳と極又廣兵衛侍之此
不能中爲令子亦例取以儀并例事之此意に
以とも謀書謀判之儀も相當の旨不長因幡守に
勅命爲仕の例中破り加え遠城似せ其進帳
取極其法形出衆と認有合判押用以上の旨令々

取捨身礼不彫刻ノ事ノ虚名と名余有公判と
押用武家屋敷之捨七ヶ不ノ子然大伴親明科
或ハ不動産再建時ノ名中款右動化帳
以至令全残米形取中令以多ハ配分以多不残
當方雜用ホモ捨ハ未不所至捨身存念
以之引也一止獄門ノ相同

評定不所評定

謀書又ハ謀判致ノ以之引也一止

獄門ノ以之引也一止
同ノ上世仕直中付ハ江川所取捨門店
取ノ人組以良ハ才子恭玄儀或取方
过若也ノ場月ノ法取常供儀自雲仕領
子立以之同不法負人打ハノ者良ハ方
引後ノ儀掛合有以之同人病病ニ付
此ノ代引文常供文人豊隨若苗付
引捨不能也此ノ税領ノ同送評也之

皇親中令書有元極後出身分引元朝
當時以信不承運照外之人義漢列
龜山吳院おわく重天浴池燈行有
以執之似世壽進帳又ハ海系正覺寺外
そ方守より似せハ我認貫本皇親并志学
別命世之の儀と龜山令光院代僧
其光院ハ此後一皇親ハ供侍ハ学ハ
不化僧ハ抑ハは成ハ我家在所所家ハ

教々本ハ月拾四ハ本ハ此後百拾四ハ本ハ
敬公令九ハ武子武来法拾之貫九百又後
例取之為之方武来法之貫文余ハ然之也
之余ハハ孫既分神 酒食雜用ハ也接
ハ始末ハ不存也後ハ有命之ハ也引也
獄ハ不存之ハハ後 研之者ハハ中法ハ
例之ハ見令後命ハハ也引也ハ也

中書

古語通義

書後

古語通義

漢書又ハ漢判トシテ其ノ旨トシテ一トシテ

但判人死罪

光

古語通義ハ漢判トシテ其ノ旨トシテ一トシテ

若進帳取極預之世法人之治形漢系と認
本下上有会判相用ハ後之今般之為海之を得
漢系と認下之有会判と押用ハ後之有素之
漢之執意ハ其漢書漢判ハ其助也相當リハ有
於例也之有之ハ其今之意取用ハ其中國筆

古語通義ハ其意也

古語通義ハ其意也

病死者海法は近頃之儀死罪と在例に如例に
中上公亦云流儀之者進帳之格預之世法人
之儀形名亦と認中亦と有合判押用之儀と
今般之海之去律寺名亦と認中亦有合
判と押用之儀と亦と認之執意之儀流書
深判之儀も相由之儀と例も之者之儀
今之懸之例中亦之儀也

は儀再懸勅存仕之儀也尋之執也

例中上公亦云流儀之儀例比羅羅之儀
洞規流儀之儀中亦之儀也尋之儀也
相認之儀也亦進帳之儀也亦形名亦と認
有合判押用之儀之儀中亦之儀也
以之儀今般之儀也海之儀也去律寺中進帳
之儀也亦相認有合判押用之儀之儀也
去律寺之儀也尋之儀也亦例之儀也
亦不業之儀也執意遠之儀也例之儀也

去己年先及海部甲斐守因上江左
中付公於人梅田信尚所引清和歌詠
中合又上々人之似世勅化帳取再中凡亦
彫別録一産名と名系有合判相周
武家西家之拾七条子紙大伴腰羽料等
吊勅再建録一以名中款古勅化帳取
出合録米測丸中合以多々配分録一
已録若方雜用亦悉檢公始未見唐公始

一付抄命公始之門上上獄門之申録
相因至通相所例并録書深到録一
以者門上上獄門之有之由是也具合
抄命公始之門上上獄門之由是也具合
在録公

右取調以紙書而通也所公由所子成公由書取通
因書大其要上以之

申二月

石谷因幡守

當十月冒似劫此以魏相少祖也周公天正補集
出羽之宿坊自名海拜引合者其以出打合必係
仕以魏左通也所以

出羽之宿

坊之

名海

未十月冒入年
因月廿百流航
因月廿百流航

古之者必係仕以多羽引中利於本名城不派法所

所汲人死矣彼次在德門將高因人跡古人之松
相續為一其者似之病身行初年之其以判發
評一或拾六年以來未年中深宗本中在統德
治英才子之於成史述之名彰統也尚法其政
之後拾六年以來存年二月仲漢學之如史也
地出因宗約以在祥守地中守學案之奇者為一
子年之學為法好尚二月仲因不立出定之其後
唐之古宿而不可缺人其方之立也子年之學小卷後

後又惡人出前書在洋守中堂大破舟後後
度必實自刃越及以骨助成之每先為進神
其以依正師形神之不能相認公幼化帳上掛書
恐公中身不持之有金判之押用仍事之致
存

一因之月仲日不足清第新藤就所家持四都信
方上我衣洋守沒得之使不能中仍前書幼化帳
と後正公家為後後料令公不相濟公男公令子

源叔述云

一因月仲日不足因所甚之信在重之信方我
若書因依之信與令之方源死述云

一因月仲日不足尾張所武所目也持八解在信
系於信免之信又配人深之信方之我若書
因依之信與令之方源死述云

一因月廿一日勅所平河所之十月也持浪人山田
胡本信方之我若書因依之信與令之方源死述云

御取返書

一 明之廿二日通達所 着之傍地借心 本通所 系 於
領見 有之 衣之 解人 安之 解方 子 然 兼書 同 根
子 續 与 合 之 為 之 方 御 取 返 云

一 明之廿三日通達所 又 丁 目 合 之 傍 店 久 本 傍 方 子 然
兼書 同 根 子 續 与 合 之 為 之 方 御 取 返 云

一 因 月 中 日 不 是 後 兼 書 同 根 亦 得 已 解 取 解 方 子
子 然 兼 書 同 根 子 續 与 合 之 為 之 方 御 取 返 云

一 因 月 十 五 日 牙 且 風 林 守 門 亦 兼 之 九 亦 兼 傍 方 子 然
兼書 同 根 子 續 与 合 之 為 之 方 御 取 返 云

一 因 月 廿 二 日 小 所 門 兼 日 所 依 七 店 六 本 傍 門 方 子 然
兼書 同 根 子 續 与 合 之 為 之 方 御 取 返 云

一 因 日 不 是 丁 目 亦 得 已 之 傍 方 子 然 兼 書 同 根
子 續 与 合 之 為 之 方 御 取 返 云

一 因 月 中 日 不 是 上 所 亦 得 已 之 傍 方 子 然
兼書 同 根 子 續 与 合 之 為 之 方 御 取 返 云

前書不形と不足先途申に及給可く之に多分
組同知共之に備は名中へは身右外へ盗悪事
折へて再懲嚴安以係仕は事若書中之に過之
お邊一名中へは埃衣始末見度へ取以係法は事
常披法入は中へは物は事之病死仕は

正文御九条と正付増へ九の質石へ以係業
外へ事へ上へ子物へ音有る名落給へ是定例へ過
一申有る且御へ九は若夫相礼は事へ為海中には

有合仕

右以係仕は執書向へ通は度は仕は重一法若紙
中へ九は事は同へ以上

未三月

石谷周幡書

仕は重附

出羽守

坊

海

右示物御死に候も有らば此物に候と梅合子候
元方手等々一尺厚身法白切城候所中を以て
平遠に切城候中を為し令子亦か如く元方者
令之職物に依り多分物に由是に當大福中
後、例に乳に交り天保七年申年大弟安房守所其
く是に候之上は仕事中付に梅本町幸目法八店
加之坊候及困窮候に遊悪心出御事之候と又年
心示厚身以来當時病死者之候外其人中合渡川

合比羅之印上洞院に就き當時御死候者合渡川
是より相識に似せ者進帳に梅預之世活人七江
海形名前と候者中、有合判と相聞長之坊外
之人供く示候候に當地名示、是好所家可く
或之拾文又七之を其後、御死に令拾得、余拾七百
八拾六貫文法一同に配分候一尺強酒食雜用、
是拾六拾六尺厚身死罪中付に并かあり事、示候
公候に事候又七之を其功に事候、或て人と誘ひ

右今喚於遠友但馬守宛中後市同付太事

相哉

右

中後監紙記程事但馬守宛中後

一 右掛紙作事但馬守宛中後市同付太事

一 市用先事

一 市同付流附事

中後紙記程事但馬守宛中後市同付太事

右一紙記程事

十月廿一日

遠友但馬守

入江楽水也

右中後書調出同付事

一 右中後書調出同付事

是

入江楽水中後相掛紙其後紙作事

右但馬守宛上

一 右中後書調出同付事
右中後書調出同付事
右中後書調出同付事
右中後書調出同付事
右中後書調出同付事

奥二上

小宮清組
若狭内池菟

備
年物養祖文

陽岳 入江 樂水

右樂水燧苗冬出切未子形の内言或百儀と一徳或
文字を二字と認然出若年冬の重平海少紙字脚
相遠と書若年冬の清取不中の自合と子入
或文字相改若年冬出同不冬和清取不中依

子形差出少子形の内言重平と燧中同少松
二相違の右身出若年冬燧相乳少紙別紙書接
大洲云道重平海と出技持方子形書換と入
少身自道重平例有少出若年冬清取自
子入燧と若年冬樂水燧と身不言と自
この相違と少出若年冬字解認遠の近と燧
云道例の内少相違と若年冬若年冬の重平
相違の子形を自合と子入燧と少出若年冬

人殺と謀るもの、致し相國の身事、不相辱し、以て新
相分、成り有る、以て、相士、一日、以て、評定、而、て、是、出、言、以、
て、信、信、出、言、の、故、に、信、信、を、信、信、一、十、上、云、上、

四月十日

石谷因幡守
伴次郎
松平次郎

同分札
書面、坪内、又、評定、成、明、士、日、評定、而、

是、出、言、以、

右、月、十日、但、馬、を、信、信、馬、を、信、信、奥、に、吊、り、下、

書面、同、一、通、一、信、信、信、信、

九月十日 三名

法書院書

南、村、外、組

坪内、又、評定、而、

申、月、十日、揚、州、参、入

右、坪内、信、信、在、場、の、故、に、先、在、馬、中、信、信、内、攻、神、一、相、分、の、
手、通、中、信、信、の、故、に、先、在、馬、中、信、信、作、十、日、病、死、仕、り、
所、分、の、故、に、先、在、馬、中、信、信、死、相、違、い、信、信、の、信、
死、難、信、信、の、故、に、先、在、馬、中、信、信、

但願一通之儀候に於て死骸之儀同人之由先
母内候賀事に付海老江に仕

以上

九月十二日

石谷因幡
氏次弟他
松平波原

右一通之儀在通中

元

書院
明子組
坪内又原

右一通之儀先在揚座候に於て先母之由先
母在吟傳未交内候事に付相果に付死骸之儀
候石谷因幡氏相候に病死之儀候事に付死骸之儀
川海老江に仕

右九月十二日致事候に付

元

森令三郎初系一併由海老江に仕同付松平
次郎之儀候神意に奉為由用在裁に付代

法月身
神保作智与

本海山事

本月七日但馬之船、對馬之船、若奥之船、

是

神保作智与

森令三席初冬一伴由陸海經松平法席急病也
相公以故一長海事

有日但馬之船

十二月二日

小菅清組
葉田能光与
森令三席

其方燈常、何持不宜、張籍、形、集、方、宿、止、若
波、其、其、方、友、言、之、收、收、形、由、同、錄、席、令、谷
薩、之、所、未、中、今、寺、院、三、市、之、志、之、不、以、障、去、席、外、見
為、致、重、押、以、口、在、按、中、成、令、致、在、集、取、之、之、不、以、若、之、由
薩、之、席、外、見、波、障、去、席、但、押、以、同、松、中、成、外、其、

若在外去人を捕らぬに及物言人等去りしに盗
り外去又二坪内を所在也然に谷相馬場外二番
所人松次郎外去人を及殺害し其場、其左刀を
抜合住を通ぬ、山連て追捕し、抜又抜、追近出集
出後中、身、有、同安、不案、不、
斬罪也 作付也

山崎清組
松浦隆心
牧村春吉
牧村春吉

其方、常、身持、不、且、強、弱、形、多、坊、方、
止、高、其、上、森、林、令、言、師、後、言、同、言、
澤、寺、席、中、令、寺、院、押、込、盜、入、以、長、才、收、
外、見、又、二、坪、内、令、所、在、也、然、に、谷、相、馬、場、外、
馬、町、人、松、次、郎、外、去、人、を、殺、害、及、以、左、見、更、刀、を、
諸、元、を、實、質、持、持、寺、席、中、捕、以、由、及、以、右、
時、日、豊、隆、池、令、平、方、在、宿、積、日、記、帳、取、
同、人、打、金、並、以、教、令、一、旦、中、陳、在、在、

左の一身に有るを委燬不存一と云は信一斬罪
正 作付也

牧世書
牧世録三席

其言燬常一牙指不直臨霧影動毒方一而止完
神一子一森令三席教言一因言神一令云臨三席
中令寺院神込盜入一以良兄牧世書一物俱一外見
神一又二坪内一常一在書一燬一云相一馬場外一云一而
所人松浪外一云一入を殺害神一云一一旦其場を避け

神一見國一云一山一後一不押包一有神一中之一古一古一牧一未
由羅一云一七令一云一有る一を委燬不存一と云は信一

斬罪正 作付也

右今候於神定而大自付候一云一信一云一信一書一中一海一町一在一以
石谷一因情一書一由一自一付一神一保一信一智一書一云一云

右書新 中後奉書一信一云一三通一上一也一因一通

一云一昨日一在一因情一書一信一云一信一保一信一智一書一云一信一云一信一書一中一海一町一在一以
一云一云一

一云一在一因情一書一信一云一信一保一信一智一書一云一信一云一信一書一中一海一町一在一以

出仕重濟、中國國系別紙書後、創員令二十日押込

二十分〇〇年

奉命、云保六年、重濟、國系、九八、入以、國、出、別、書、後、同、日、
商人、一、銘、與、也

石谷因幡
候、次、他、也、也、
神保伯智也

石谷因幡
候、次、他、也、也、
神保伯智也

教令、
死罪

出仕組
三川組
瀬田津波所元也
合、云、積、也、所
死

二十日押込

出仕組
松浦津波所
教令、
横田、新、也、所

二十日押込

出先
坪内、候、也、也、
石井、然、三、所

三、也、也

同人、也、也
川上、犯、也、所

東宮の御子
入王宮の上
源進放

南宮の御子
源進放
八

二十日午後

淡路花川戸河
又人組持名
傳 玄 坊

右通出仕重三郎中付の事

十月

右通出仕重三郎中付の事
一統勅書而帝御の事
又人組持名
傳 玄 坊

淡路花川戸河
又人組持名
傳 玄 坊

東林令三郎收状御の同派三郎の事
中付の事
以分業同能定与松浦源正支死の者由人三今日
由、保定石の事出山松の事

十月二日

右通出仕重三郎中付の事

一右通出仕重三郎中付の事

三月二日

中先
坪内侯領事
後

家奉不取歸之有出及津免不重請入差和

正 作有

友介使於酒井古案元宅中後若奉命到坪内同會
有馬常日大系之狀相致

友介 中後若奉命

一 致馬之使出觀古案元宅中後若奉命到坪内同會

上

一 出用先之事

一 出用先之事

一 中後若奉命之事

一 坪内侯領事之事
中後若奉命之事

中在後山子進有和氣之事相致之事

後山子進有和氣之事

三月二日

酒井古案元

坪内任直書

在申書事切之封出同分より甚し由物候候上

小菅清組支取

在先
坪内任直書

家事名取候より由取法先由書得入候事

作付

在申書事切之封出同分より甚し由物候候上

三月

別紙書付候事候より由取法先由書得入候事

三月二日

在先
安野馬書

長田相造及

安野馬書

在申書事切之封出同分より甚し由物候候上

一坪内任直書より由取法先由書得入候事
在申書事切之封出同分より甚し由物候候上

於去年九月二日申之詔願之旨其難也
後之世名蓮性院經法白令之旨其
權便之旨其旨其旨其旨其旨其旨
其旨其旨其旨其旨其旨其旨其旨

六月廿日

細川頼朝之弟
吉田平之弟

是
後便之旨其旨其旨其旨其旨其旨
其旨其旨其旨其旨其旨其旨其旨

因氏春嶽後此年九月
淨免之旨其旨其旨其旨其旨其旨
其旨其旨其旨其旨其旨其旨其旨
其旨其旨其旨其旨其旨其旨其旨
其旨其旨其旨其旨其旨其旨其旨
其旨其旨其旨其旨其旨其旨其旨
其旨其旨其旨其旨其旨其旨其旨
其旨其旨其旨其旨其旨其旨其旨
其旨其旨其旨其旨其旨其旨其旨
其旨其旨其旨其旨其旨其旨其旨

存念之思者流 殊亦知以存之善 藏之方
何如之 續之思者流 是又因在亦對面其
實之類之思者流 修之不屬之 極便之 藏
後對面亦類之 殊亦知以存之善 藏之方
望

五月廿日

松平敬重 拜
林尔 意八

是

松平敬重 拜

五月廿二日 大和屋 上七

是

細川敬中 与祖母蓮性院 先建与中 与病氣
之知此良別 与出也 亦身 松平春嶽 修之 暢之
續之 与初雅之 茂之 松平 松平 松平 松平
此病中 与法身 好生 中對面 及 及 及 及
蓮性院 住居 自合 厚愛 松平 松平 松平 松平
別紙 通 敬中 与 家 東 内 意 上 少 松平 敬重 拜
因 松平 敬中 亦 取 翻 如 春 嶽 修 之 由 幸 意 及

怯也免也 仰亦良親族之系而會又其文書
性後亦成遠矣故其後亦軍以善而少親
下波名相建重業其對面其後下波而少也
蓬性院病氣別其相勝少好其對面
波名少其伯如錫其相實事其後亦能其受
穩後其親對面其後亦其相建少方之
有以理少一事

書 援

安政二年

七月廿日

松平越前守

思云 仰首其為在亦其隱居也

仰首其意實怯也其亦

家督其後其松平日向其相續也 仰首

名申
九月

同人

出格

思古を以て哀夜眩神光也 仰出

但立訓に張紙少成中を獲相成且又親族を

向ふ又々文書往後亦く遠慮を以て

よ御内沙汰に尤も安んずる事と兼る事と

下波名基

書
振

天保子

九月

松平因坊

父下波名基所出也及亮年之上通年病

相成少く存振別一也方免を以て定むる一也

親類縁者に松皮の對面波の山に名義の筆
此原の波の中より松の波

下波の波の中天原六未十有松の波
元來未之外は重波の中は重波の中
名義の筆大有一身松居志有松の
波の中七申十有松の波
波の中一件の波の中は重波の中は重波の中

永繼居るの筆

書
去

申年

尾波の波の中波の相預の通巻の巻女
波の中波の波の中波の波の中波の波の中
波の中波の波の中波の波の中波の波の中
波の中波の波の中波の波の中波の波の中
波の中波の波の中波の波の中波の波の中
波の中波の波の中波の波の中波の波の中
波の中波の波の中波の波の中波の波の中
波の中波の波の中波の波の中波の波の中

以政世版下上名記

上青

於本丹後書

右接抄

此書局(水)名若名(下)中(上)事

右通以相(同)少(分)書局(通)事

書接

去申

正青

紙希(卷)文

松平春嶽

右春嶽妻(俗)父細川越中(与)旧院(以)策(病)乳(与)

引(親)在(左)方(病)中(見)策(對)面(有)青(骨)之(板)

刊(之)紙(以)板(設)一(夜)版(別)紙(通)松(平)

越(者)多(事)來(内)意(中)少(以)春(嶽)臨(在)

仰(付)以(來)之(妻)御(越)中(方)久(之)通(路)

相批西親對面... 見其... 眩中... 情... 少... 有... 事

右一通... 及... 通...

大... 藏...

丙六月... 書後

以化... 二月...

月... 書後

今日... 其人... 名... 是... 相...

意中未因以事官者中少以自他爲事
茂中此後上中事及打合是又同化
中少以右是例者通

書後

天保元寅

五月

堀大和守

家目從員村田中勝次揮筆

右此月之候は阿比文及上申書
此書は度守侍口上之書也人揮筆
此書は右此月之候は右例也
之候は右例也

右此月退書後通書之書は右例也
少所及勝次之書は右例也
今上通書は右例也右例也
此書は右例也右例也

高門之末末向以交之在初向之及之括
移有之周書如之在之林山
右之付於中書以不家如少人少管中後
有之周書之通少於後之及之得之志
州之通之末之在之及之在之及之在之及之

書後

王保才印

十二月十日

月書大志之版
主世之角

一 張馬後其末之在之在之在之在之在之在之
修付以修付之在之在之在之在之在之在之
在之在之在之在之在之在之在之在之在之

一 張馬後其末之在之在之在之在之在之在之
修付以修付之在之在之在之在之在之在之
在之在之在之在之在之在之在之在之在之
在之在之在之在之在之在之在之在之在之

書後

天保十三年

十二月廿日

一 中总及流士膳村安部大少並申進
致申成以付各取同

一 中部屋取各取及与各取等首一

同十二年

十二月廿日

一 折津与及家取換因与物押込申成以付

各取同

一 中部屋取同取

一 全著及家取流士古心幸七江并

申成以付各取同

一 中部屋取同取

同十二年

七月廿日

一 八月及家取並及与有取同初累六

人押込未成以付欠扣月

中部在扣同家

同奉

十二月廿四日

一 河内波家母神人奉定更重出及

春日空更左名寄未成以付欠扣同

一 河内通欠扣以付同月廿四日

清免

同十四日

九月廿四日

一 河内波家母神人奉定更重出及

春日空更左名寄未成以付欠扣同

一 河内通欠扣以付同月廿四日

清免

遠友此馬名家

河内波家母神人奉定更重出及

同二十日

此法發是古中成之者持其必學法矣
也之者一也又十成十成其法與海山
不其成主之成其法以法了其必成
不角之付其下付其下付其下付其下
之者一也古之付其下人成其下之
其下自揮其下其下其下

同中
元
古
西王女

此法發是古中成之者持其必學法矣
也之者一也又十成十成其法與海山
不其成主之成其法以法了其必成
不角之付其下付其下付其下付其下
之者一也古之付其下人成其下之
其下自揮其下其下其下

甲府勤者
酒井伯智子文就
多門總及助

右總及助後當二月下旬う桐花相承相勝常
以三竹比番醫角師大槻後亦大陰間席津控紙津子
醫角師收款道三河醫角師山崎利角藤法法色々
卷中江口山角鬼角相勝足中江紙角藤子山角山
莊守所本場(武元波江中園山角山角)月廿廿夜夜

是酒醉為見其相遠者皆所然也此進之酒者
相遠者其別而相臨也中以其於又云九百世後有彼為無病
為相見也之後後後之為多者其相行以中百未中別
病死之為相臨也其為人者中國之身別為見其世法
及後者其相見也相遠者皆所然也此進之酒者
者身以上也其有中一平也此所其同也以上

周六月十六日

松浦孫正
岩溪内記

右記後而月乃可也其年一而中

書白月通之而年之其

後其年之其

六月十六日 岩溪内記

書白月通之而年之其

後其年之其

其年之其

七月六日 洋書不其

元水社甲子清作

其年之其

入其年

果七

其年之其

十一年不其年之其

中其年

右園

右園人
上野
中元
寅人
田吉
乙卯年

右園

右園人
上野
手求
吉如
乙卯年

右園

右園人
上野
白元
今六
乙卯年

右園

右園人
上野
手求
文七
乙卯年

右園

右園人
上野
唯求
珠八
乙卯年

右園

右園人
上野
求
若六
乙卯年

十

右園人
上野
求
若如
乙卯年

右園

右園人
上野
求
若八
乙卯年

此書出病後也速致為之字少接場者
立入字後方中波り花下は其書抄卷一に在
る月の上

五月

長和二年

戸田左衛門

洋紙

書向中野人足下は月平人然も此紙の通し
松平年つとる御方出紙は故公をさしつとる
尺六の紙ありとの才所へ書出は故公去申年中
因行へ故紙渡すり申月とる洋紙とつとる通

通る由氏に書出成り候も有るは交はれ通る
斗ふと作候て候は書出上

五月

評定所

若し諸君が相おろし中付の法は正に略し御事
に法渡り通達國事より先例信法に法渡

書向に渡りて其の事
先例信法に法渡りて其の事
御事及び法渡りて其の事
知

己月廿日 法渡りて其の事
精進信法

書向に法渡りて其の事
御事及び法渡りて其の事
知
己月廿日 法渡りて其の事

入字人々所常中形中付意公と力在
同種好いしし地之く列るは國境
と来交易方行又中外國人皆同念
此作物事の時之有く外國人亦一物事
之好む其由信使必集いしし地之
波方おそく却る者多し制及之は組
く地之く多る百事なる為る後之は集集
門終集新汗いしし地之好む方おそく却

進進いしし地之類は信使皆情中之同
こ上取中り地之十修中其五は地之
同之は及地之信使皆情中之同
進之取中り地之十修中其五は地之
地之好む其由信使必集いしし地之
廣之は同之上取中り地之十修中其五は地之
其成極之は同之上取中り地之十修中其五は地之
先之は同之上取中り地之十修中其五は地之

載洋書卷之十 雜抄 卷之十 凡九段 滿月
伊呂波文字別紙 卷之十 凡九段 惟作可
坊法中 凡九段 凡九段 凡九段 凡九段
物定 凡九段 凡九段 凡九段 凡九段
傍法 凡九段 凡九段 凡九段 凡九段
卷之十 凡九段 凡九段 凡九段 凡九段
十段 凡九段 凡九段 凡九段 凡九段
大附 凡九段 凡九段 凡九段 凡九段

此字之生 凡九段 凡九段 凡九段 凡九段
此字之生 凡九段 凡九段 凡九段 凡九段
成而快 凡九段 凡九段 凡九段 凡九段
了 凡九段 凡九段 凡九段 凡九段
此字之生 凡九段 凡九段 凡九段 凡九段

石月

村垣 遠海
口 凡九段 凡九段

海成
書向 凡九段 凡九段 凡九段 凡九段
事 凡九段 凡九段 凡九段 凡九段

一 古月朔以之... 古月朔以之...

列紙書格... 列紙書格...

從少多... 從少多...

書後

天保八

十一月

比根 木村安房

男...

書後

天保十三

二月

比根 九...

男...

池田播磨守 系極玄庫

池田播磨守 元市橋傳七席

菅清組

天田...

...

其... 境門八...

乘波一信持是燈
此是教外為始末
依一遠傳也
右一週之次第也

二月

池田播磨守
系極之庫

池田播磨守
元市橋徳七郎

右令之次第
遠傳

右裏の切子書
元長中
板垣玄作

遠傳之旨分受字也
類鏡之長教是之兩
比之舟中進致

神谷村
福原素
松一物

与東野中
利之由
長玄輝
三屏

右一週之次第也

四月

右月十日右和歌集巻後上音中御

一 昔有人一紙与升中一是調法在

一 古月分代一有出御一自一古用是形一右常事一書入事

一 庄住重同書後中御集原同外礼去紙三調礼一同一上後礼均一

去申上月廿一日右和歌集一要一右同女一入一海下一山一受一歌一子一右一也一皆一
携一登一書一右一也一必一必一國一外一今一自一也一也一可一

同外礼

小川友之部燈別紙書後一例一具一合一遠一清

一紙 一作外礼

同外礼

板垣玄仙燈教令一紙一合一遠一清一也

一作外礼

是

別冊庄住重同一内松一由一遠一清一也一合一遠一清一也

一紙一改一也一三一也一右一合一罪一也一平一也一也一申一也一放一也

中御集

是

別冊仕立並伺は出方之上に名池田精磨と市橋
傳七郎宛出方之上に名權夫と市橋又先在る
字宛出方名無名と名出目付一人三合中後以紙で
糊をこし奉

一 大徳丹波守の猶及後隠居長冊八寸の紙に改名波守
薩守と名に取申し中後以紙で奉

大徳丹波守の紙に改名波守と名に取申し中後以紙で奉
二十人全書希多の書宛紙書持候也

書面伺一通一市橋名に取申
在り候也

酒
四月十日

池田精磨
市橋之三郎

元正裏出の切書書候

書面書候紙り候

板垣名紙牌

板垣 左左云

西十百歳

右板垣左左云又板垣名紙牌名紙有候今三紙紙
遠傳と云 作付との有候又之科中送致と云

作付と云 左左云右左云 候中後以紙に取申し中後以紙

三任宗茂在河上

正月

左近守御上取年

池田播磨守
宗也公庫

八月廿三日

大庄春

松本因幡守

兩官忠次所

名代葉山晴政所

原事不取錦出番不相為舟山在得入

江 作舟

右今使就酒井右京亮中務列所令由同舟

大庄春 昭相致

右邊如由月書出三區馬主家六箇日上年加の相上

一 中邊里領の調任馬主候より右邊守殿より是右邊守候より右京亮に奉り候

又月廿三日

久大和号

岩殿内池及
戸田氏歌反

本通一結封一のり名附地席上又封之

一 酒井本宗元より中後相繼は辰中親より女子我に事奉らるる
洞六和号以上

一 西宮忠次席より後相繼より壬辰六和号より事奉らるる
本宗也以上

新番以

長教日向組
次 若くは

市番清光少番清入身

作身

本通一と本宗

又月

本通一と本宗
一 大和郡佐治町本宗也以上

小宗清組支也

同文書

本通中後山名何も支那に出入

有日古和製薬の同用は在るに似

光

二子石

古書十一年

古書院書

小出丹

二十日

古六病系少重清入
為相致は招一は少

二百六拾俵

内二十俵一斗余は定り

あ九馬

古書二十一年

古書院書

古六病系少重清入

和松様之席

二十日

古六病系少重清入
為相致は招一は少

二百六拾俵

内百七十俵は定り

あ九馬

古書十七年

同

児玉 徒之也

二十日

古六病系少重清入
為相致は招一は少

二百八十俵

内百俵法皇

法書二十五年

同 皇朝日向

沢 宏 之 座 二十

二百俵

法書二十五年

大法書 松平侯爵

破 公 三 之 師 之 座 二十

二百俵

法書六年

同

足 三 之 座 二十

二百石

内百俵法皇

法書二十五年

同

兩 宮 忠 次 座 二十

本 人 十 三 高 宗 之 座 入 内 御 殿 御 座 也

本 法 書 名 相 懸 御 座 也 必 然 公 分 十 高 宗 入 御 殿 御 座 也 作 有 日 叙 御 座 也 書 板 京 金 百 日 御 座 也 正 法 公 御 座 也

二百石

内百俵法皇

又 奉 勤

同 明 宗 公 御 座 也

依 田 甚 一 座 二十

本 法 書 名 相 懸 御 座 也 必 然 公 分 十 高 宗 入 御 殿 御 座 也 作 有 日 叙 御 座 也 書 板 京 金 百 日 御 座 也 正 法 公 御 座 也

二百俵

出番三年

西宮藩在り候

遠巻 又三席

三三三

右内三之下十年古書讀入
為相取在り候

諸組番方之候

津田氏之教も出番分存候内奉申合為相取候事
古書も外此向公障候者果之書障候事熟も別紙
中國古書書之者古候古候見申候事も勘取候事
一通百圓の古も三有古候候且又以公障中國古書向

内調候致致候以候ハナレ仕直事

西宮藩在り候

書扱

只此二

二月十六日

小重清入
亥州

百日の先

別書

半余之内あり候

小林三郎在り

奉事出番候出番相取候

江守書局
書校

天保十三年
同九月廿九日

同上

二十日の先

出書出宛山菅清入江 作本以付

大南六月廿二日傳馬名取出書書局出宛同母上

一葉山菅清也
大南田中書也

有堂海十席

八月廿八日

出書組

三言并去取書組

久保紀三郎

公代大森信左衛門

出書不直出書不相無分出書出宛取書出宛切取

出 同上様一三社書也

取書宛取酒井右衛門宛中流列取書一由目付取取

由一相取

有嘉嘉有日月書畫但馬之殿本抄上其外八國音上
 一十後置紙但馬之殿本抄上其外八國音上
 一市川分也用老之事
 一市川分也用老之事

由小姓組書

言年云能の捕地
 久保紀之助

本道有酒井本道也宅在武藏山根下幸國書局
 以了年一三三三三

八月廿八日

少者事也銀

久保勤次郎

久保勤次郎

將紀由以流不直也書不相無有由書也其
 後由切其也 正上様一三三三三
 其言也常之公附之等用也其也 不直也其也
 不直也其也 不直也其也

由小姓組書

方月廿九日羽達在馬島殿、因以呼留、

差

出取子

人

明羽又付遠在馬島宅、之相親筆

方月廿八日

有同人出筆

奥之上

出取子

勘定原題順

筆院書 出取子
三井三教の補紙

三井

久保

紀

三十九

三百俵
中書三年

右紀由成牙持未宜由、以三教の補、
中書の取中

有、出取子、同國の相探の事、別紙一通、
出取子、

地測其外、武藏、山、公、
地、生、味、酒、色、

瀨、色、先、在、長、宿、海、軍、院、院、
末、修、習、在、紙、以、知、

庄及清先少重清入江
作舟庄加増之内二百石
庄 石上庄和

庄島庄舟
田に 加賀と

長崎在勤中如何之勢も相国千上家事由有縁
舟

新屋庄市切米
庄 石上庄

加賀庄島
田に 又席左門

常一舟持石増一必相国舟

左米
八月

不及庄和

庄先
岩 瀬 市 庄

将肥後と

思云有之庄及清先新屋庄市切米庄 石上

庄和舟 作舟舟

文政二年
十月

庄番舟 石上
少重清入道基
百二十日少清先

西九庄島庄舟
酒井山城庄舟
井上三平庄舟

相書松平外記

赤城於終元元公相書九月及女湯山長出所而然有
子舟

但返石父家始りり

天保壬子

九月二日

差紙

三十一日付先

八月廿九日夜段安内と子供花火三少元花火二燄ハ

庄菊

辻

進 左馬

一為三用と夜相觸以終有少元等周書於

山原名書し事也

本書後信也

文久三年

北書

之浦藤

分礼 之浦藤

御下命書藤下御下所人致
御下命書藤下御下所人致
御下命書藤下御下所人致
御下命書藤下御下所人致
御下命書藤下御下所人致
御下命書藤下御下所人致
御下命書藤下御下所人致
御下命書藤下御下所人致
御下命書藤下御下所人致
御下命書藤下御下所人致

此書... 筆

別紙

右... 也

今... 也

注... 也

右... 也

今... 也

注... 也

注... 也

日... 也

今... 也

右... 也

分... 也

今... 也

注... 也

今... 也

注... 也

右... 也

右ノ下所人致ノ品ヲ取致公品ナリ

右ノ色ヲリテ海江

右ノ色ヲリテ海江

口見

右ノ色ヲリテ海江

右ノ色ノ浦鱈ノ如ク令其得也ノ一年前迄
ノ浦鱈ノ如ク令其得也ノ一年前迄
ノ浦鱈ノ如ク令其得也ノ一年前迄

右ノ色ノ浦鱈ノ如ク令其得也ノ一年前迄

右ノ色ノ浦鱈ノ如ク令其得也ノ一年前迄

右ノ色ノ浦鱈ノ如ク令其得也ノ一年前迄

右ノ色ノ浦鱈ノ如ク令其得也ノ一年前迄
右ノ色ノ浦鱈ノ如ク令其得也ノ一年前迄
右ノ色ノ浦鱈ノ如ク令其得也ノ一年前迄

水滸も下りぬ別海の色を合所置る
中三浦延ゆは身入つては分たぬ
以後舟自航申す水滸も別海に舟
寄る所言中三浦延ゆは別海に浦
并別海に舟入りて人致さず
男も舟に別海に舟入りて舟
以て水滸も下りぬ別海に浦
船別海に別海の色を合所置る
心へ事

但藤の舟に延ゆは舟入りて
之れに別海に舟入りて舟

心へ事

合所置る舟
浦延ゆは舟
中三浦延ゆは舟

衣の舟も別海に舟入りて舟

一 舟も別海に舟入りて舟
舟も別海に舟入りて舟

舟も別海に舟入りて舟

川水主為高女所校り給ふ其書九
つと 信為し如き事年身如く之は信
信ふし之は宜し其の如く及之信の如く
身何の如

全書抄 東山集

二月廿九日

稻垣 勇

足

書曰言はるる如く紅了たり年

古の七の如く信を年下りたる如く

古物定書

古物定

古物及所

物も不意に場来不意身内及如矢
古物定人及如矢 作有

古物通て事海

古物定人及如矢

同文云 右之通て中後ハ
下入ハ

小善法修立祝

法修修修修修
中如定出也

保田忠

初方不空場亦不空也身出及中欠
云云ハ 仰事

右之通て中後ハ

右十月九日大和殿直御 内右左在殿 出如云

中如定出也

云云

同文云

右之通て中後ハ

大和殿直御

高武百依

市島堂

吉乃所

百平一歳

高百依

二人校持

書院後院後院

保田總一物

右并市島堂
由安進朱粉方
不取意との大馬
公海成心

市島堂
市島堂
市島堂
市島堂
市島堂

十月

松平出雲守
市島堂
竹内中村守
一色山城守

同分九

列飛書板
市島堂
市島堂
市島堂
市島堂

五知の御子何れも日数二十日改るは申
下は控式

書後

去末

二月二日

洋定不直
申如之

本村致彦

古後申
書定不直
二十一日の申

書後

去中

二月八日

書定不直
申如之

冷本治次郎

矢部平三郎

出役申

押込

二十日の押込申

津島川出役不附上書出役初物申
不申

右の十月八日在事也因て大御所下りて受てお望みの事

古書院番次

高木保親子他

阿部信八郎

外國所用出沒物と不取魚子出沒
諸物及取証 作付

日人他

藤次郎他

大系輝三郎

松平流後子伝

秋之御書

素田茶入序

内及肥後子伝

二月九日書

海人富入序

同文之 是知文之傳

新書以

治味江府於其伝

朱捕書

佐村十代

外國古用出及流矢子伝

右通之書中波

小書流後子伝

初集抄河内子伝

水村合之書

同文之

大系之脈支記

村上及十郎

松浦源平支記

飯田登物

外國店及出沒為向不取息子身出沒

法光子身

右ノ通て言中後ハ

小十人氏

稲生次郎氏

尾ノ物持子

大橋次十郎

稲生次郎氏

次ノ師也

海味小次郎

同父之

外國店ハ

同父之

右ノ通中後為坊主之息向ノ事

明子之志以年

右馬十有月廿七日對馬屋出雲屋古海一

之二百倭

由書院者

之其任境古屋

外書所用出及以取

阿部信八郎

右中平目為向長之海了為今及如河
風文之出及以取一乘死拘以手所用出及
法免

之武百拾石中奈七合

小字信德

江蘇快河内吉文死

外書所用出及以取

水村令一物

功信者

江蘇快河内吉文死

外書所用出及以取

外書所用出及以取

佐村十代

又之武百之倭

内書院人校取也

右中平目為向長之海了為今及如河
拘以手所用出及以取

子方百石

子方百石

子方百石

子方百石

古書院
大正三服支院
外書院用出公府券

村上及十郎

古書院
外書院用出公府券

飯田登作

古書院
外書院用出公府券

大沼好十郎

古書院
外書院用出公府券

伊藤小次郎

兄方百石

兄方百石

兄方百石

本令及如何一風文...

古書院
外書院用出公府券

春田兼六郎

古書院
外書院用出公府券

伊藤富太郎

古書院
外書院用出公府券

大东藤三郎

古用出及清次

右之通云 作舟の礼法及此後の上空

十二月

同元

別紙書格の例度合河部
作舟日教二十日之由
今之由格持た此舟出及清次
是舟の成お舟の及及舟
お舟村と及十舟又六舟

新舟は何れ舟
村地は此舟
津由近江舟
竹本舟人正
去之保越中舟
一之山越舟
是舟格舟

何と出及清次舟格成
お舟の及舟格 作舟日教
十日及舟清次舟下海舟

書後

天保十子
十二月

出及清次舟

舟格舟清次舟

二十日之舟次

醫業不精と必路遠成り舟舟

小室舟格舟清次舟
出及清次舟
舟格舟清次舟

書後

文政八年

八月廿九日

宛 内府

萩原屋次郎

増田屋三郎

押込

十日の及久

一叩女七日

内府柳波出見

成以

還所、由沙汰程、取直、不及、宛
由月分、十建拂、出、以、後、不、問、以、身

右、年、二月、廿四日、出、雲、取、直、對、馬、殿、是、奉、上、
同、其、旨、御、上

任法元鏡市而後父漢林靜居今夜內室痛年身
去衣之日年尚通其月之播聲其方以九月廿女
蘇州人亦夜之里田在之市也候之也及候播聲其
衣束中令移之而衣澤以候之衣分分其衣如衣
中一痛者不其如候候之重痛者衣神身痛者難言
其年一候之候候候候候候候候候候候候候候候
候市而後之其年中中中中中中中中中中中中中
不若病也其候候候候候候候候候候候候候候候
身中分也

二月廿日

松平播聲三月
松平播聲三月廿日

見

内三子一紙の事

古より一六六六の事

知久様市井法文也... 諸君... 此の事... 是の事...

指摩... 此の事... 是の事...

二月

指摩... 二月

任法... 此の事... 是の事...

二月

市川郁吉

六月廿日



日野氏印
為憑此
一
字

